Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者

『この我のものとなれ、勇者よ』『断る！』

第三巻

Comic Ishida Akira
Author Touno Mamare

漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉雲之丞・toi8

KCA264-6
角川書店

まおゆう 魔王勇者

9784041202050

ISBN978-4-04-120205-0
C0979 ¥580E

定価：本体580円(税別)　発行：角川書店

1920979005808

まおゆう魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」
第三巻

まおゆう
魔王勇者

第三巻

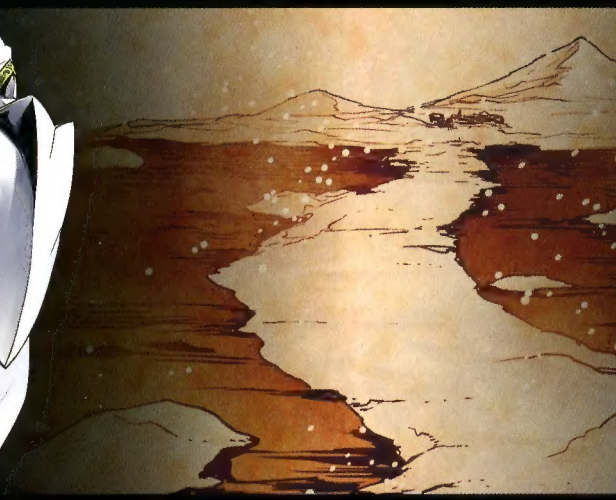
漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

第九話 Archenemy and Hero 9th chapter 001
それは私の役目だ

第十話 Archenemy and Hero 10th chapter 049
お帰りなさい、勇者!

第十一話 Archenemy and Hero 11th chapter 091
いかがでしょう、我が君

第十二話 Archenemy and Hero 12th chapter 139
損得では割り切れないもの



漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉弦之丞・toi8

おおかみ

Archenemy and Hero 魔王勇者

――「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」――

第九話 Archenemy and Hero 9th chapter

それは私の役目だ

止めろォ！
ダメだ
止まらぬ…っ
鉄壁を誇る
我ら鉄亀隊が…
あれが
伝説の勇者の
片翼――
女騎士か…！
まおゆう
魔王勇者
第九話

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」

Archenemy and Hero

第三巻

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案
水玉螢之丞・toi8

コラムページ
竹之内大輔、花倉洁(レッカ社)
野村昌隆

まおゆう 第二巻のあらすじ

Lectures on Archenemy and Hero
Outline of volume.2

「この我のものとなれ、勇者よ！」

人間と魔族の戦争を終わらせるべく魔王の城へと乗り込んだ「勇者」。しかし、「魔王」から戦争の効用を始めとするこの世の真実を知らされた勇者は、魔王と共に人間の勝利でも魔族の勝利でもない「まだ見ぬ丘の向こう」を目指して歩み始めた。

その後、魔王たちは人間界にある寒村「冬越し村」に居を構え、農業改革や教育に着手する。だが、再会した「女騎士」から、かつての仲間である「女魔法使い」が魔界へ旅立ったことを聞かされた勇者は彼女の捜索を決意し、その意を汲みとった魔王は彼を魔王直属の「黒騎士」に仕立て、魔族内のゆるんだ規律を正す任とともに送り出す。

魔界の地に立った勇者だったが、女魔法使いは見つけられず、乱れた治安を正す過程で対峙した「火竜大公」の不満を収めるため、人間が占領している魔族の聖地「開門都市」の開放を約束することになる。

その頃、魔王の仮の名である「紅の学士」の評判は、彼女がもたら

した技術革新の成果とともに広く知れ渡るようになっていた。そんな彼女の元に、商人組織である「同盟」に所属する「青年商人」が訪れる。魔王は、大局的な視野に立った上での商人としての在り方を説き、それを理解した彼との間に協力体制を築くことに成功する。

勇者と魔王、それぞれが着実に歩みを進める頃、世界にも大きな動きが起きていた。人間界にあって南氷海に浮かぶ極光島を奪還すべく、南部諸王国連合軍が侵攻作戦を発動していたのだ。だが、戦術面での失策により連合軍は大敗を喫し、冬の国の王は戦死する。雪辱を誓う彼の息子は「冬寂王」を名乗って王位を継ぎ、女騎士を司令官に迎えて極光島への再侵攻を誓う。彼らは先の戦争を教訓として、流氷を架け橋として陸路をもって侵攻しようとするものの、必要不可欠な資材の調達が難航し、作戦は頓挫するかに思われた。だが、それを予想した魔王の登場によって状況は打開され、ついに第二次極光島侵攻作戦が発動されたのだった！

まおゆう人物紹介

Lectures on Archenemy and Hero
Character Profile

魔王

魔族の王。未だ見ぬものを求め、真の意味で戦争を終わらせるべく、豊富な知識を武器に行動を開始する。現在は「紅の学士」を名乗り、冬越し村に滞在中。

勇者

魔王に説得され、彼女とともに戦争を終わらせることを決意した青年。人並み外れた戦闘力をもつ。魔王の配下「黒騎士」として、魔界で活動することも。

メイド長

魔王が幼いころから世話をしている側近で、魔王の親戚でもある。『メイド道』を究めるため、日々精進に励んでいる。

女騎士

湖畔修道会に所属する騎士。魔王の農業改革に力を貸していたが、司令官として極光島奪還作戦に参加する。

冬寂王

冬の国の王。戦死した父の後を継いで王となり、第二次極光島奪還作戦の実行を決意する。

青年商人

「同盟」に所属する若い商人。羅針盤の交渉の席で魔王の才覚に惚れ込み、求婚している。

執事

冬の国で冬寂王に仕える執事。かつては弓兵として、勇者や女騎士と旅をしていた老戦士。

3子弟

貴族や軍人、商人の子弟たち。現在、魔王のもとで修行中。

メイド姉

元は農奴だった少女。メイド長の指導のもと、妹とともに魔王の館でメイドを務めている。

メイド妹

姉とともに魔王の館でメイドを務める少女。泣き虫だが意外に芯は強い。

南氷将軍

極光島に駐屯している魔族の長。巨大な銛と剛腕を武器に戦う。

はぁッ
はぁ
はぁッ
すげぇな…
我らが姫騎士将軍様は
もう
あんなところまで
切り込んでるぜ
ああ
噂以上だ
お…
俺っ！
なんだ？
戦いは
怖かったんだけどよ
なんだか…
姫将軍を
見てたら
おお
勇気が湧いてくるような
気がするべ……！
……
すぐに
出番だぜ
そらっ
義勇軍
第四隊
前へ！

ズズ

オオオオ
ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ

ザザザザザ
進めぇ
進めぇ!!
ズズ…ズ
ガバァ

あああああ
あああ
あ
ガガガガ
ガーン
メキ
メキ
たす…
ガ
あ
ガ
ヒュン
ヒュン
ヒュン
よし！
弩兵隊
もう一斉射！
義勇軍槍兵
第二隊
前進!!
おおおおおお

笛の音ッ
南西 海上！
巨大魔物を操る
魔物使いは
そこだ！
弩兵隊！
音が止んで
弱ったぞ！
今だ！
押し込めぇ!!
ビュオ!!

ゴオオオオオ
左翼後退！
敵魔族およそ千！
重装歩兵第四隊
押し出せ！
おお!!
退くな！
この場所を死守すれば後続は来る！
王国のために！
冬寂王のために!!
我らが姫騎士将軍に勝利を!!

突撃(とつげき)ィっ!!

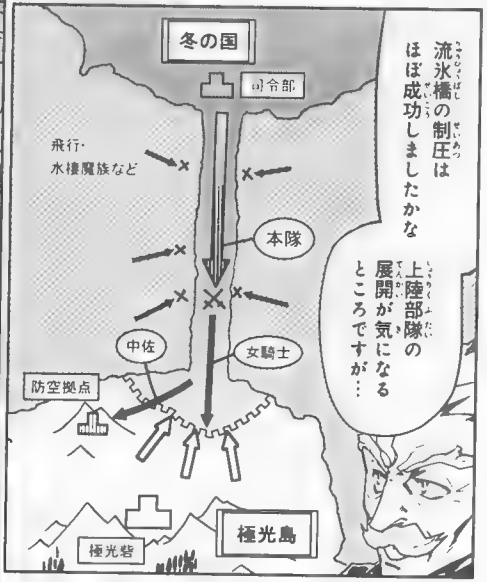
ゴォォ
オォ
オ
オ…

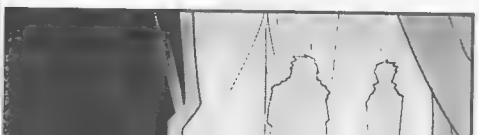
周辺はほぼ制圧
そりを分解しての仮設砦の設営も順調です！
うむ
引き続き周辺と極光砦の警戒にあたれ
ハッ！

あの…中佐
もし砦から敵本隊が出てきたら我々は孤立してしまうのでは…
大丈夫だ
友軍を信じろ
姫将軍を信じるのだ

第二次極光島攻略作戦
簡易司令部
伝令!!
伝令ーー!!

大型魔物の撃破に成功!
十二体目です!
おお
前回 目撃された数のほぼすべてだな


流氷橋の制圧はほぼ成功しましたかな
上陸部隊の展開が気になるところですが…
冬の国
司令部
飛行・水棲魔族など
本隊
中佐
女騎士
防空拠点
極光砦
極光島



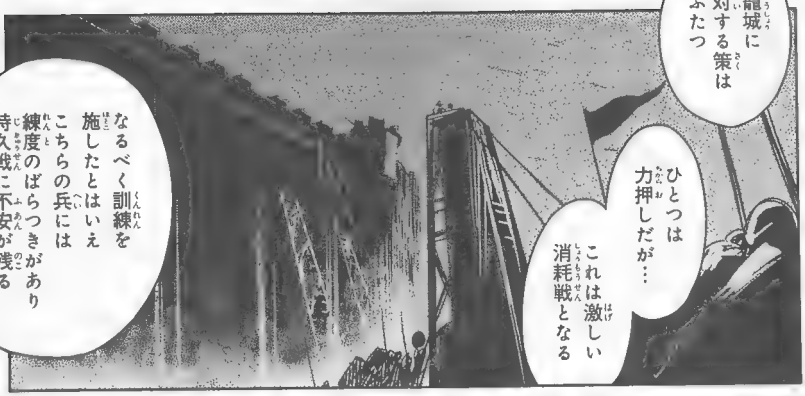
上陸地点の制圧に成功
橋頭堡は確保した
岩山についても抵抗戦力はほぼ制圧、占拠に移った

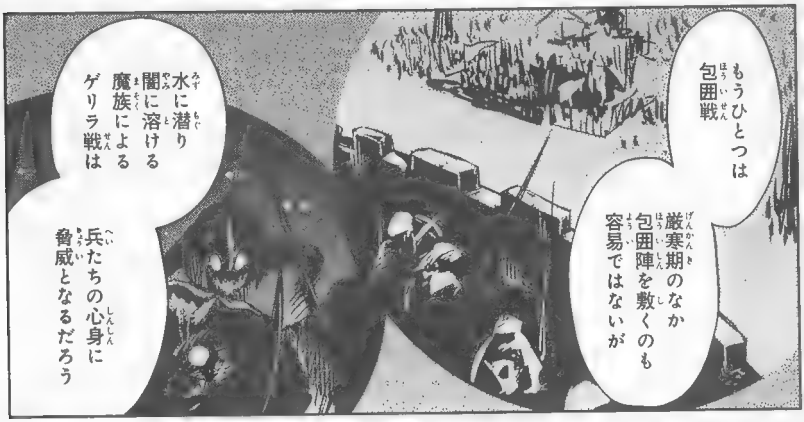
通信体制を確立させる伝令を
ハッ
…それと換えの馬を頼む
ブルル
あいつの汗を拭いてやってくれ何度も私を助けてくれたからな

首尾は上々のようですな
月刊少女野崎くん
まぁな損害はざっと五百弱といったところだ
五百…！
大成功ではないか
ここまでの戦果を挙げられるとは…

ああさすがだ

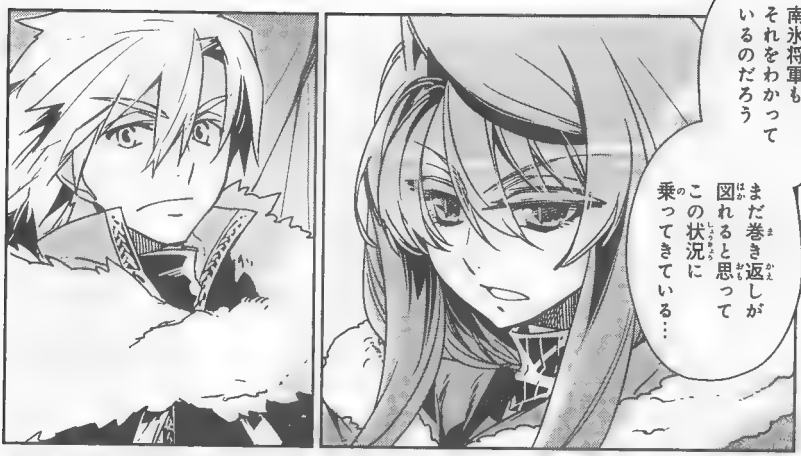
見事な
采配ぶりだった
奇襲を捨てて
ここまで有利に
進めるとは
学士殿
まぁな
…だが
ここまでだ
極光島には
天然の洞窟も多く
山城は堅固な要塞
そこに魔族の猛者である
南氷将軍がいるのならば
籠城策をとってくるだろう

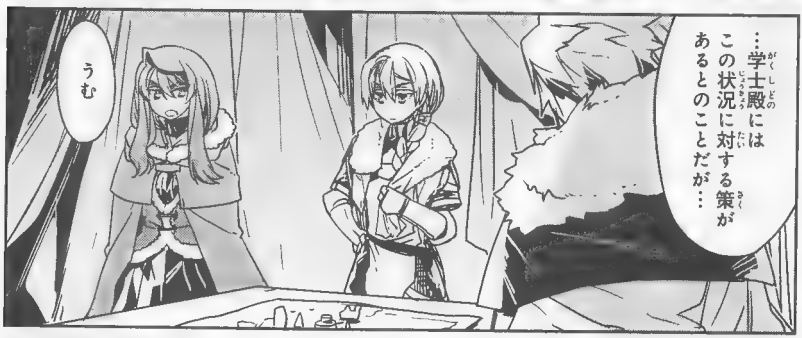

籠城に
対する策は
ふたつ
ひとつは
力押しだが…
これは激しい
消耗戦となる
なるべく訓練を
施したとはいえ
こちらの兵には
練度のばらつきがあり
持久戦に不安が残る


もうひとつは
包囲戦
厳寒期のなか
包囲陣を敷くのも
容易ではないが
水に潜り
闇に溶ける
魔族による
ゲリラ戦は
兵たちの心身に
脅威となるだろう

どちらにしても
胃が痛くなる
神経戦だ

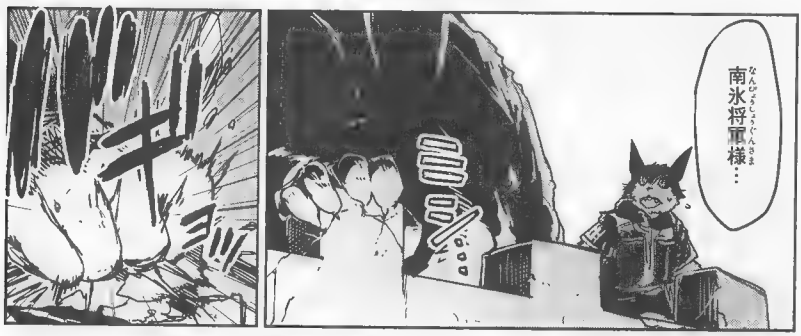
簡単な状況とは
思えぬな
本当なら
ここからが
本番だからな

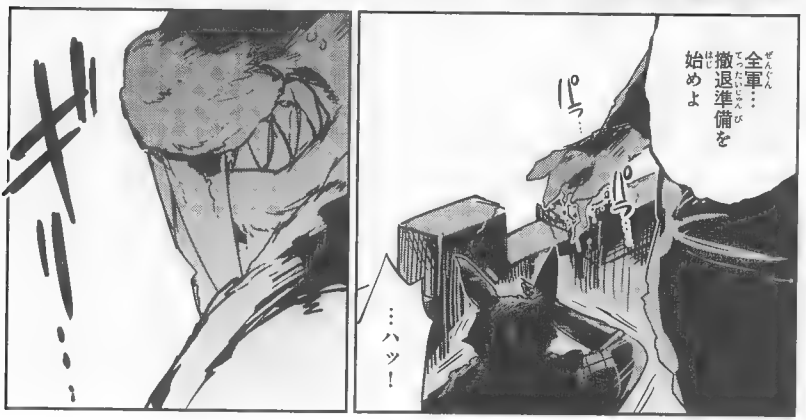

南氷将軍もそれをわかっているのだろう
まだ巻き返しが図れると思ってこの状況に乗ってきている…


…学士殿にはこの状況に対する策があるとのことだが…
うむ

そろそろ教えていただきたい
奇襲による電撃戦で砦を落とすことを捨てまで必要とした…時間の理由を
そんなに大それた策でもない
もうすぐわかる

伝令！
伝令です!!
極光島のさらに南
魔界大陸方面から
軍勢が出現ッ！
その数
一万以上！
味方です!!
なんの芸もない
――援軍だ
この数の圧力には
南氷将軍は降伏…
は
せんだろうが
逃亡する


南氷将軍様…


全軍…
撤退準備を
始めよ
…ハッ！

第二次極光島攻略作戦
橋頭堡 天幕
極光島城塞から
魔族軍出撃しました！
その数 おおよそ
七千五百！
謎の援軍に向かって
南方樹氷地帯を
高速で進軍中！
七千五百…全軍か
思ったよりも
早い反応だったな
至 冬の国
流氷橋
極光島
王国軍
12000
凍結海
魔族軍
7500
援軍？
10000
極大陸
至 ゲート
おそらく
援軍と我らが合流して
連携行動に出るのを
嫌ったんだろう
しかし
あの援軍は
いったい…？
「ゲート」の
向こう…
魔界から来る
人間の軍といえば
ひとつしかない
「開門都市」に
駐屯していた
聖鍵遠征軍だ

魔族七千五百と
援軍一万弱か
どうなるかな
聖鍵遠征軍であれば
練度も装備も
人間界最高のはず
数の上でも
優位にあるし
負けるはずは
ないと思うが…
そりゃ
どうかな？
しゅいんっ
タイミング
合わせるために
迷わせたり
足止めしたり
したからな
結構
疲弊してるぞ
あいつら
勇者!?
生きて…!!

謎の援軍と
魔族軍先端が接触！
援軍の隊列は
縦に長く伸び
先頭は少数
蹴散らされて
いきます！
な？
遠征軍とも
あろうものが
情けない…
島の反対側だ
時間はかかるが
助けに行かねばな
…やはり
動きましたな
撤退する我が軍の
後背を突くつもり
でしょう
フン
させぬわ

ところで
全員に撤退を
命じたはずだが？
私も人間どもに
ひと泡吹かせて
やりたいと
思いまして
…好きに
するがいい
恐縮です

急げ！
一番槍は
我が隊が
取るのだ！
なんや隊長
ハリキって
ねえっ
姫将軍に
イイトコ見せ
たいんやろ
ハハハ…
…

ウウウ

我が名は
南氷将軍!!
ここから先は
一歩たりとも
進ませぬ!

ワアアア
アアア

伝令!
南氷将軍を名乗る
魔族がこちらにッ
軽装歩兵の
一隊が壊滅ッ!

退かせろっ
ハッ

みずから
玉砕覚悟の殿か
敵ながらあっぱれ
といったところだが…
…ヤツもまた
ひとりの武人であると
いうことだろう
しかたない
ちょっと
ヒネってくるよ
勇者
それは
私の役目だ
武人の
最後の願いだ
この戦の将軍として
応えねばなるまい

ポA
ポA

……？

フン…
歯ごたえのない奴らよ
おい
味方の軍の撤退は順調か？
バシャッ

キィィン…
ガゴォ…!
ドォ…!
ハァ…ン
ドォ…ン
ガキィィ…ン

ゴゴゴ
ハハハッ
嬉しいぞ！
この勝負を
受けてくれてなっ！
勝てる勝負を
捨てる気はない！

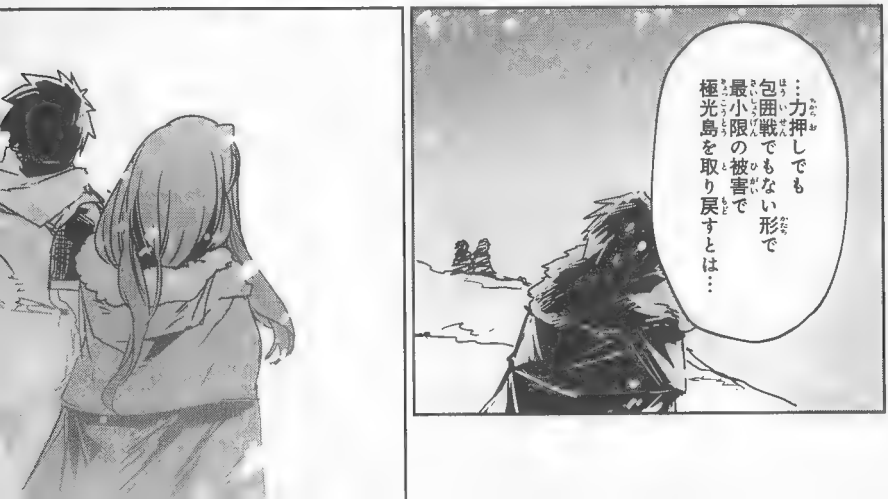
!!
我は
天下無双！
そのような攻撃
効かぬっ
天下無双が
聞いて呆れる
私はもっと強い奴らを
ずっと見てきてるんだっ

すげぇ…
こんな勝負
一生に一度しか
見られねぇぞ

女騎士殿は
ここまで
強かったのか…
彼女を司令官として
迎えた自分の目は
確かだった——

だが
南氷将軍も
強い……！
爺
彼女は
勝てるのか……？
勝つでしょう
彼女の強さは
よく知っています

それに
王よ
この戦いは
すでに勝っています
……！
その通りだ
まさに学士殿の
言った通り…
勝利では足りない
ものを司る——


…力押しでも
包囲戦でもない形で
最小限の被害で
極光島を取り戻すとは…

ギィィィィン
ヒョオオオ
ギュオオ!!
凍える吹雪!!
勇者直伝
岩盤返し!!
ゴゴゴゴ
ははははッ
見事!
さぁいくぞ!
ガシャッ
よかろう
引導を渡して
やろう
チャキッ

ガキィィ
我と力で噛み合う…だと…!?
ありえんっ
非常識が身近にいるとこれしきは身につく…
いくぞ

速い……！
いや…
まだ速く…!?
……

グッ
なんと…見事な
技の冴え…よ——

勝った…？
勝った…
姫将軍が勝った！
勝ったぞ！
俺たちの…
勝ちだぁ!!!

終 第九話
それは私の役目だ

第九回

黒色火薬が産んだ新兵器

古くから燃焼促進や爆発が確認されていた黒色火薬。これが武器に用いられることで新たに銃器が誕生した。

魔王は銃器の試作品をすでに発注していたようだ

中国で生まれた火薬と銃器

作中で黒色火薬、またはブラックパウダーと呼ばれているものは、その名の通り火薬の一種である。この黒色火薬は、いくつか種類が存在する火薬のなかでも最も早くに発明されたというのが通説となっている。文献に登場するのは6～7世紀ごろ、唐時代の中国が最初で、「硝石と硫黄、炭を混ぜると激しく燃焼・爆発する」ことが記されている。

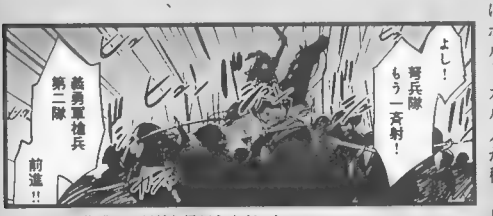
成分は文献のとおり硝石と硫黄、そして木炭からなる。それらの配合比率は使用目的によって調整され、燃焼速度や爆発力が調節されるが、平均するとおよそ硝石7に対して、硫黄が1、木炭が2程度の比率となっている。

名称のとおり、黒色火薬の見た目は黒い粉末だ。摩擦や衝撃、静電気などに対して敏感に反応するため、取り扱いには慎重を要する。水分を含むと爆発しにくくなるので、水を加えたうえで調合を行い、それを乾燥させて使用する。

中国で生まれた黒色火薬は、その後モンゴル帝国がアジアを席巻した13世紀ごろには兵器として使用されていたことが確認できる（コミックス第2巻118ページにある「火箭」もそのひとつ）。そして、シルクロードを経由してヨーロッパへ伝わり「銃」が発明されることとなる。（ただし、13世紀後半のものと思われる青銅製の銃身が中国で発掘されており、それがヨーロッパに伝わったと考えられている）

なお、日本においては、1543年にポルトガル人が種子島へ到着したことをもって銃の伝来とすることが一般的だが、それ以前からアジア式の銃が伝来していた可能性について議論されることもある。

「まおゆう」において、火薬は人間・魔族の双方にとって未知の技術として扱われている。しかし、そのなかで魔王は火箭を開発しており、さらには銃の実用化に向けても動いていることが読みとれる。これは、魔王の知識や発想が極めて優れていることの表れだが、一方でそれがもたらす影響が――我々の世界でそうであったように――極めて大きいことも彼女は認識していて恐れている。果たして今後の物語に銃は登場するのであろうか――。



極光島奪還作戦では長槍と弩が主力だった。
この戦場に銃器が登場することはあるのだろうか。

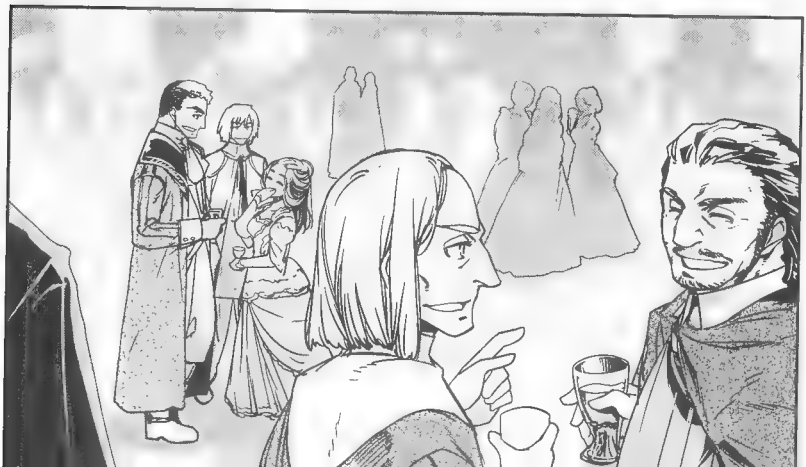
戦いの余熱

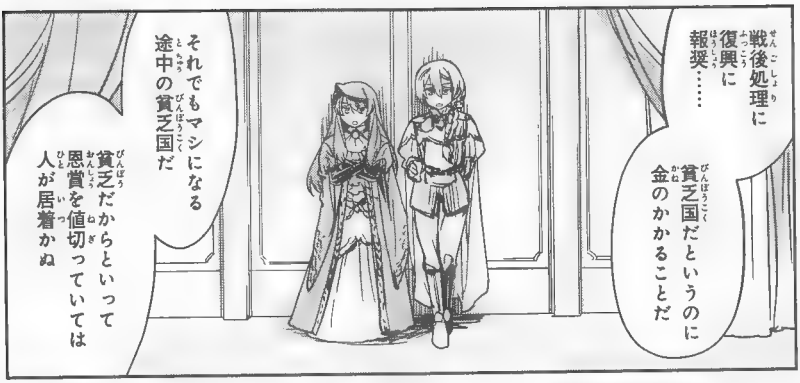
ざわ
ざわ
おーい
隊へた
こっち
こっち
お疲れさん
ああ
お互い無事でなによりだ
メシだぞ
まって
まって
……
どうした？
いや…
姫将軍の戦いが目に焼き付いてな
俺たち…すごいものを見たんだよな
ああ
孫の代までの語り草だ
「爺ちゃんはあの女騎士様と共に戦ったんだぞ」
…ってな

我が民よ！
極光島奪還は成った！
しかし 魔族との戦いが終わったわけではない
今後 極光島は魔族軍に対する最前線となり
また 戦役被害の復興にもまだ難しい問題がある
まおゆう 魔王勇者
第十話
だが 今回の勝利をもたらした皆の力があれば恐れることは何もない
そして この冬寂王 諸君らの忠節には恩賞をもって報いよう

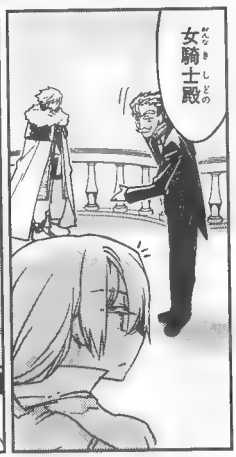
第十話 Archenemy and Hero 10th chapter

お帰りなさい、勇者！




戦後処理に
復興に
報奨……
貧乏国だというのに
金のかかることだ
それでもマシになる
途中の貧乏国だ
貧乏だからといって
恩賞を値切っていては
人が居着かぬ

…ところで
勇者は？
来ているはずだが
どこだろうな
まだ生還を
おおっぴらには
できないし
こっそりメシでも
食わせてもらうよ
どこで誰が聞いているか
わからないし
…とか
なんとか
なるほど


女騎士殿
杯を手に
聞いてくれ
今宵は客人を
迎えている
かつて
勇者とともに
魔界を駆け抜け
此度の戦役において
前線司令官を見事に
務めてくれた——

この国は…
流れ者の私に
本当に良くしてくれる
その温かさが
胸の痛みを
溶かすようだ
私はこの国の人々の
穏やかな笑みを忘れぬ
この国の四季と四方に
億千の幸いが
ありますように——

わあ
あ
あ
パチパチ
パチ
パチ
パチパチ
パチ

若
若
あっ
ああ…

学士殿のありがたい
言葉をいただき
この国の長として
嬉しく思う
これからも
この国の発展に
その知恵をお貸し
くださることを願う
学士殿も
学究の道があるゆえ
宮殿へ招くことは
叶わなかったが
その功績
名誉爵位に
ふさわしい！

さらに皆には
報告することがある
今回の戦役において
南部諸王国は
一層の結束を強めた
また
今までのような
対魔族軍事作戦
のみならず
通商・学術・技術分野でも
協力が不可欠であるとの
結論に達した
南部は長い季節を
雪に閉ざされた
厳しい土地だ
しかし その地の民には
その厳しさを乗り越える
強さがあると信じている

我が冬の国は
鉄の国・氷の国と
同盟を結んだ
これは通商 および
技術開発の各分野に
おいての基本的な
協力の合意である
だが しかし
それのみならず
将来的な連合国家を
視野に入れた取り組みだ
肩を並べて戦った我らは
これから先 あらゆる分野で
ともに歩めると信じる
諸君らの協力を
願いたい！
わあああ
ままま
パイパイ
パイパイパイ
乾杯！
チン
王の勝利に！
姫将軍の
勇壮に！
学士殿の
叡智に！
南部の国々の
明日に！
わあ
あ
あ

麦の3倍の収穫が!?
ホホウ
作付けは難しいのですか？
種芋の管理をしている
修道会が技術支援も
してくれている
それほど難しくもないし
開拓民の収益は上がっている

銅の価格が上がると？
分業体制における
比較優位の法則という
この国の鉱物資源の調査は
将来への投資として
活きてくるはずだ

あの気品と知恵…まるで王族のようではないか
なんて人なのだ…彼女も英雄なのか？あの勇者のように
王になった途端にこんな奇跡ばかり目にするとは
この世はまったく油断がならんな
ハハハ…
ムシャムシャ
！
よう

こんなところにいたのか
こんなにコソコソしなくてもいいだろうに
まー一応な
女騎士こそパーティーの方はいいのか？
ああ…
騎士たちと戦の話をするのはいいんだが…
キャー
キャッ
貴族の令嬢たちにキャーキャー囲まれるのに疲れてな…
女騎士もパーティーの時くらい女らしいヒラヒラ着ればいいじゃん
ああいうのは苦手でな…
それに どうせ似合わないよ
んなことねーって似合うと思うぞ

馬子にも衣装って言葉もあるしな
ホホウ
学士は人気だな
そうだなー
あいつも理論を広めるのにいい機会だから頑張ってるんだろ
あの人から直接聞いたよ
…魔王だって
そっか
よかった

よかった？
そんな重大なことを打ち明けられるほどの仲になったってことだろ
それって友達じゃんか
いや！あいつは敵なんだ！
ガンコとして!!
え!?
なにぃ!?
そんなコトねーだろ
なにぎ…
それいっ
そこを深くツッコむな！
極光島
援軍？10000
至
そんなことよりも極光島の戦いで突然やってきた援軍…
聖鍵遠征軍のことだ
あれを連れてきたのは勇者だったのか？
あー
どこから話せばいいのかな…

魔界でいろいろあって…
開門都市に駐屯してた
人間の軍を撤退させる
ことになったんだよ
とは言っても
力ずくで追い出す
わけにもいかないから
一計を案じたんだ
二週間前
魔界
開門都市
おい…
ああ…
キィ…キィ…
ズズ…
俺たちは
市街地の見回りに
きたはず…だよな
いったい ここは
どこなんだ…？
まさか
噂の呪い…？
！
誰か
いるぞ！
ゲタゲタ
ゲタ
おい…？

ドダダダ
夜が来る！
闇が来る！
やつが来る!!
…正気じゃない
いったい何が…？
ザワ…
オオオオ
やつが来る！
黒い悪霊がやってくる！
亡霊騎士がやってくる！

きゃあああああ
……
カシャン
アンナノテ良カッター？
あぁ バッチリだ
けっこー すごいな コレ
エヘヘー
妖精(ようせい)ハ幻術(げんじゅつ)得意(とくい)！
エヘン！
フフン
ハスハスハス

よし
この調子で手分けしてあちこちに幻をかけるんだ
ハーイ
ヘスヘス
オー！
キャッ
キャ
それから夢魔鳩はいるか？
貴方に創造されたこの身
御身の側に
夢魔鳩
ダレ？
使い魔だこないだ思いついてな
司令官室一帯に夢の回廊を作り上げろ
思い上がった貴族どもに毎晩悪夢を送り込んでやれ
仰せのままに

開門都市
駐屯軍本部

限界だッ！

これ以上
この呪われた街に
居続けられるか!!

司令官

そんなこと言ったって
どうするんですかい？

だいたい 魔族娘の
ぼいんぼいーん☆に
きゃっきゃうふふで

街じゅうに居座ったのは
あんたら近衛隊じゃ
ねぇですか

東の砦将

外部の砦にいる
貴様にはわからぬ！

毎晩のように
悪夢が…

死霊の呪いが
街を覆って
いるのだぞ！

言ったな!?
よし 今から
貴様が司令官だ!
この先 この都市を
魔族に奪い返される
ようなことがあれば
すべて貴様の責任だぞ!?
ばばばば
我は全軍を率いて
極光島へ援軍に赴く!
同じ軍のよしみだ
五百ほどは
置いていってやる
われはおばば
ギリ…
おい、すぐに出発の準備にかかれ
は、
大将
大変なことに
なっちまいましたね
どうします?
とりあえず
砦を守るだけの
兵力はねぇから
全員 街に
呼び寄せちまえ
ボリボリ
副官

それから
街の有力商人と
魔族の主だった
メンバーを
そうだな…
合わせて10人ほど
招くんだ
ボリボリ
付近の有力魔族にも
特使を送り出せ
父様ってやっぱり
いたか？
え？
どうするんですか？
頭下げて
頼むんだよ
人間が魔族のなかで
生きていくことをな
…それで
まぁ
そのあとは遠征軍の
タイミングが合うように
引きずり回したんだ

なるほど
それが あの援軍だったってわけか
ああ
魔王とのタイミングはバッチリだったみたいだな！

それで開門都市はどうなったんだ？
東の砦将がまとめ役になって魔族と交渉しているらしい
使い魔に見張らせてるけど暴動とかは起きてないっぽいな

いざとなったら残った人たちが人間界に帰れるように俺も気をつけるよ
そうか…
つまり人間は魔界の拠点を失い
魔族は人間界の拠点を失ったわけだ

ところで
逃亡…じゃなくて
援軍はどうなった？

結局 撤退する
魔族軍にさんざん
蹴散らされて
壊滅したよ

救援もほとんど
間に合わなかった

それでも司令官は
情けないことに
部下を盾に逃げ回って
無事だったらしい

まあ結局 逃亡した挙句
遠征軍を壊滅させた罪で
聖王都にひったてられて
いったよ

そうかぁ
ちょっと
悪いこと
したかなぁ…

使うか？

確かに
かわいそうな面もあるが
それでも奴の数々の失策は
見過ごせるものではない
奴自身が招いた結果
だと言えるだろう

ザンキュー

あと

…また一年か
ん？
一年ぶりに再会してからまた一年！
まったくお前はフラフラしすぎだ！
は…
春には何度か会っただろ
ああ
魔王の正体とヒヨッコどもの教育を押し付けてな！
ああ…
ゴメン
ゴメン

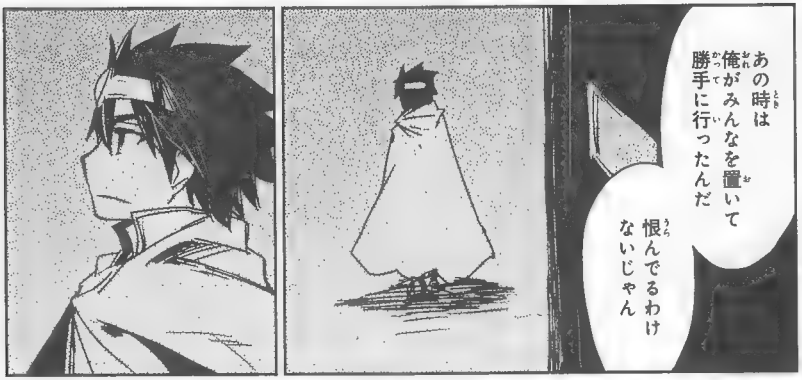
勇者は…
変わったな
そうか？
うん
笑うように
なった
えー？
前も
笑ってたっしょ
以前のような
どこか乾いて
空虚な笑い
じゃなくて
今は——

それも学士…
いや
魔王のせいなんだろうな
？
ただ——
それでも
勇者
私は——…

びくっ
おお
こちらでしたか
女騎士殿
会場で多くの方がお探しでしたぞ
主役があまり席を外してはいけませんな
おう爺さん
おや勇者も
パシ
どうぞ

ズンズン
いて～～
勇者もいかがです？
おーあんがと
お久しぶり…でしたな 勇者
ああ あんまびっくりしないのな
ごが
にょほほほほほ
童貞のまま死ぬのは魔法使いと決まっていますからな
勇者だって童貞のままでは死ねないでしょう？
おお ったりめぇだ
つめ
ぎっぎっ

…恨んでますかね
勇者
…ひとりで行かせてしまったことを
なんでさ？


あの時は俺がみんなを置いて勝手に行ったんだ
恨んでるわけないじゃん

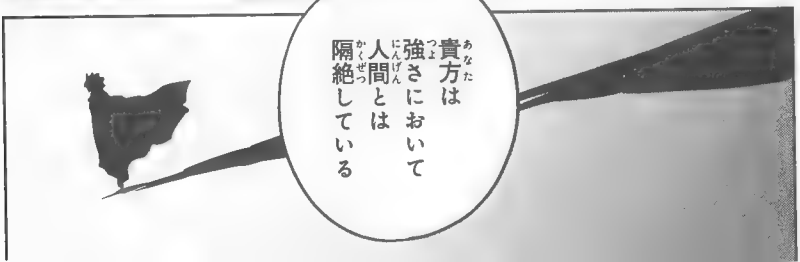
それじゃ逆恨みだ
ニョホホホホホ
…そうは思いましてもな
？

勇者は…
貴方は
強すぎる
…うん

足手まといだから
我らを置いて行かれた
わけではないでしょう？
もちろん
足手まといでも
あったわけですが
勇者の力ならば
私たちを庇いながら
戦うことも
できたのでしょう
旅のあいだ
ずっとそうして
くれたように

貴方は
その気になれば
千人の軍隊とでも
…魔王とでも
戦えるのでしょう
私が勇者に
申し訳なく思うのは
勇者をひとりで
行かせたことでは
ないんですよ
勇者を
孤独にさせて
しまったことです

勇者は強い
でも その力を
使えば使うほど
勇者はこの世界では
寂しくなってしまう
でしょう？
普通の人間は
そんな強さを
受け入れることなんて
できないのだから


貴方は
強さにおいて
人間とは
隔絶している

貴方は
私たち三人を
孤独にさせないために
置いていったのでしょう？
でも
貴方は
人間だ
人間で
あるはずだ
その勇者を
私たちは
孤独にさせて
しまった
それを
私には——
やはり
私たち人間の
罪に思える
…そんなこと
ねぇって
寂しい思いをさせて
申し訳ありません

いやいやいや
師さんには
いろいろ教えて
もらったから！
おっぱいとかな！
尻とかな！
パフパフの
見極めとかな！
偽パフパフは
ガチムチ兄貴
ですからね～！
今宵は
良い月です
ん？
――勇者
よければ
聞いてください

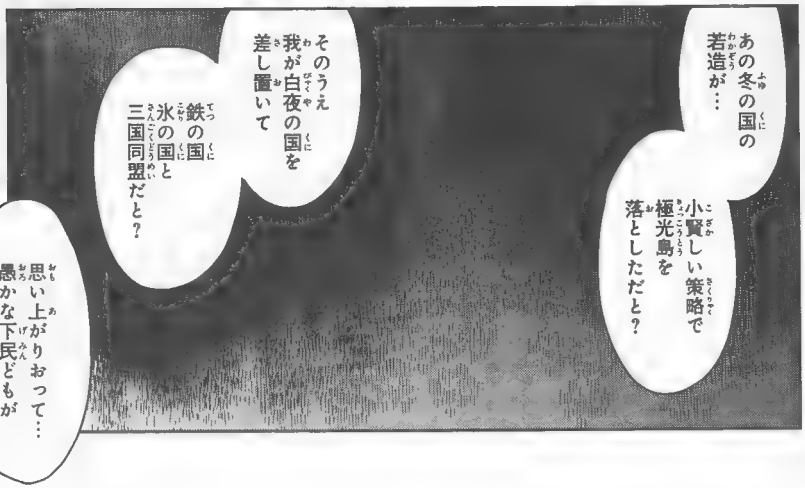
我々だって
捨てたものでは
ないのですよ
我々だって
月を目指して
歩くことが
できるのです
二年前には
できなかったことが
少しはできるように
なっているのですよ？
貴方と別れてから
私たちも努力を
してきたのです
あの音楽が
聞こえますか？
広間の明かりが
見えますか？
聞こえますか？
あの笑い声が

良い国でしょう？
うんまったくだ
もう勇者を孤独にはしませんよ
勇者の桁外れの戦闘力がなくてもなんとかする
またまたヒョッコですが…
勇者ひとりに罰を押し付けない国です
きっと勇者が孤独ではなくなれる場所があります
お帰りなさい勇者！
ああ爺さんただいまだ！

ガシャ
アアアン

なんだこのまずい酒は！
すぐにつくり直せ！
はい 申し訳ございません

チッ
今宵は月の光も忌々しいわ
閉じよッ
ハイッ

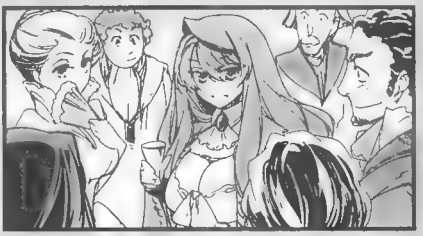

あの冬の国の若造が…
小賢しい策略で極光島を落としただと？
そのうえ我が白夜の国を差し置いて
鉄の国 氷の国と三国同盟だと？
思い上がりおって…愚かな下民どもが

終 第十話
お帰りなさい、勇者！

第十回

上流階級と社交界

**煌びやかで華々しい社交界。
礼儀作法や教養を身につけた
上流階級の人々のみが集う
敷居の高い世界である。**



王宮の祝勝会に集まった人々の多くは
冬の国の上流階級の人々のようだ

上流階級の人々が交流する場

社交界というと、正装した男女がダンスをしたり歓談する華やかな場というイメージが一般的であろう。では、実際のところはどういった世界なのだろうか。

社交界とは、ひと口にいえば王侯貴族や名家と呼ばれる家柄の人々が集まって交流する場のことをいう。会話や振る舞いに相応のマナーが要求されるため、それらを身につけられる環境の人物しか参加は許されない。従って、中世における社交界といえば、自然と出席者のほとんどが貴族となり、爵位をもたない場合は最低でもなんらかの称号をもっている必要があった。

社交界を代表するものとしては、17世紀ごろのフランス宮廷で興った「サロン」が有名だ。ただし、これは貴族たちが知的で優雅な会話を楽しむことを趣旨としていたため、出席者には文化人や学者なども含まれており、貴族に限定されたものではなかった。とはいえ、一定水準以上の礼儀作法や教養は必須であり、やはり一般庶民が顔を出せる場ではなかった。

フランスに限らず、王宮で開かれるものではさらにハードルは高くなり、そうした場に招かれるのは一定以上の身分をもつ人々に限られていた。そして、集まった人々は互いの情報を交換したり、ときには世間話でもするかのように、政治や経済といった事象を決定することもあった。一般庶民からすれば不思議にも思えることだが、社交界ではそれが珍しいことではないのだ。

また、上流階級の子女にとっての交流場としての側面もあり、ここで知り合った者同士が結びついて、次代での関係を構築していったケースは非常に多い。これは現代でもいえることだが、上流階級のパイプは非常に強力であり、社交界はそれを構築する政略の舞台としても機能していたのである。

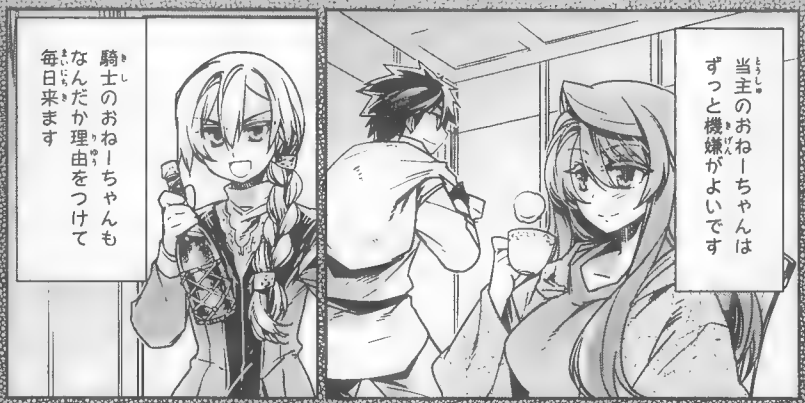
本作第10話では、冬の国の王宮で極光島奪還の祝勝会が催されているが、出席者のなかには貴族たちに混ざって平民階級と思われる人物も見受けられる。これは、冬の国は規模が小さく、リベラルな風土ゆえの光景といえるのかもしれない。だが、この場で鉄の国の職人と出会ったことが、結果として魔王に新たな武器をもたらすことになるのである。

王賓ともなれば大勢に囲まれる。
エレガントに振る舞い続けるのも大変そうだ。

滋養強壮に最適

…というわけだ
ほほ…
なるほど！
さすがは学士様
勇者はどこにいるんだ…？
忙しくてさがすこともできないぞ…
はじめまして学士様
私は鉄の国で職人をしている者でして…
お初にお目にかかる遠いところをようこそいらしてくださった
私どもは鍛冶屋…なんとか王を倒そうとしてまして…
あれは女騎士…
しばらく姿が見えなかったがどこに行っていたんだ…？
勇者分か!?勇者分を補充してきたのか――!?
ギリ…ギリ…

夏が終わろうとしてます
勇者のおにーちゃんが帰ってきてからもう半年がたちました
まおゆう
魔王勇者
第十一話


当主のおねーちゃんはずっと機嫌がよいです
騎士のおねーちゃんもなんだか理由をつけて毎日来ます

おかげでお屋敷はいつもにぎやかです

昨日は村の馬鈴薯の収穫を手伝いました
この村に新しく来た人も加わってみんなでがんばって掘りました
お礼にもらったミルクはとてもあまくておいしいの！
たくさんもらったのでチーズにすることにしました
できあがるのが楽しみです
…と
日記をつけていたのですか
今日の仕事を始めますよ
はぁい

第十一話 Archenemy and Hero 11th chapter

いかがでしょう、我が君

どれどれ…
これは川沿いの職人街だな
この国は家が石でできているんですね
たくさんの煙突と煙が…
私も見るのは初めてだ
なかなか壮観なものだな
鉄の国は鍛冶や鋳造が盛んでね
武器に農具になんでも作ってるんだ

勇者様お詳しいのですね
旅ばかりしてたからな地理だけは詳しくなるんだよ
さすがは私のものだ
それで？今日はなんの用事なんだ？

冬の国での
戦勝の宴に
鉄の国の職人が
来ていてな
そこで
あるものの制作を
依頼したのだ
勇者とは以前
教育について
話したことがあったな

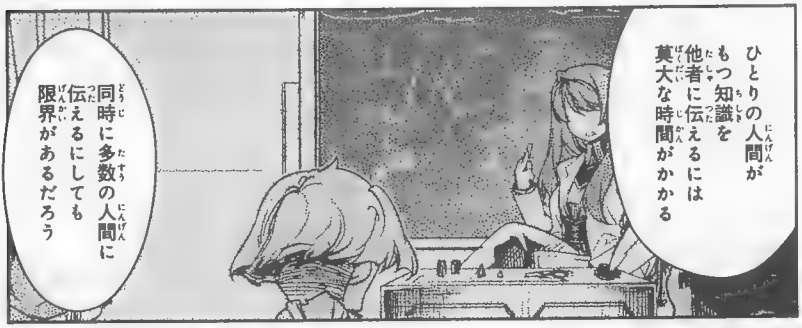
私は 教育は
この世界において
もっともっと
大きな力を
もっているんじゃ
ないかと思う
本当の世界の広さは
誰にもわからないほど
広いのだ

それを人間は…
知恵ある存在は
己の常識や知識に
当てはめて
知ったつもりになる
自分のものさしに
あわせて
世界を理解した気に
なるのだ

それは
覚えがあるな
自分のやり方
しかないと
思い込んだり
自分が正しいと
思い込んだり
それらの
闇を払うには
知識が必要だ
この段階では
教育だな
しかも教育が
より重要である理由は
「教育が重要である
事実」
それすらも
教育がないと
理解されないと
いう点にある

？
…わかります
例えば 農奴は
教育が…つまり
知識が少なくて
「もっと良い
世界がある」
ということも
よくわかって
ないんです
地主様や貴族様を見ても
「そっちに行く方法」が
わからない…
「そっちに行ける
かもしれない」と
いうことすらも
わからないんです
それは とても
不幸なことです
自分は
何なのか
何になれるかも
わからないと
いうことは
…いえ
あるいは それは
楽なことなのかも
しれませんけれど

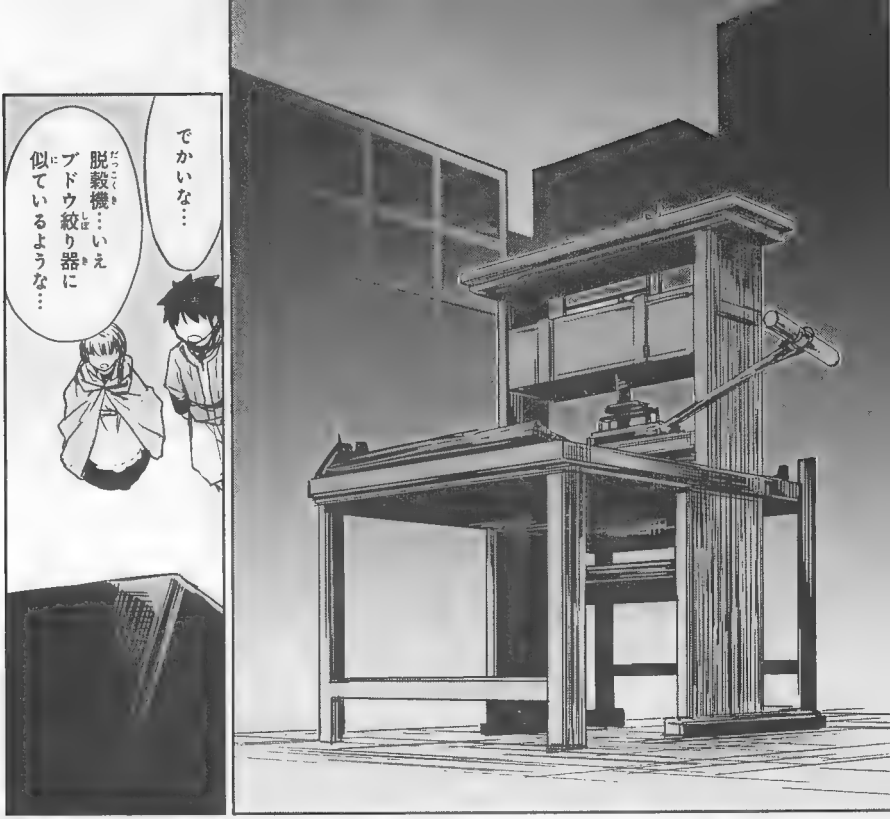
そんなふうに
重要な教育だが…
重大な弱点がある
それは
速度が遅いと
いうことだ


ひとりの人間が
もつ知識を
他者に伝えるには
莫大な時間がかかる
同時に多数の人間に
伝えるにしても
限界があるだろう

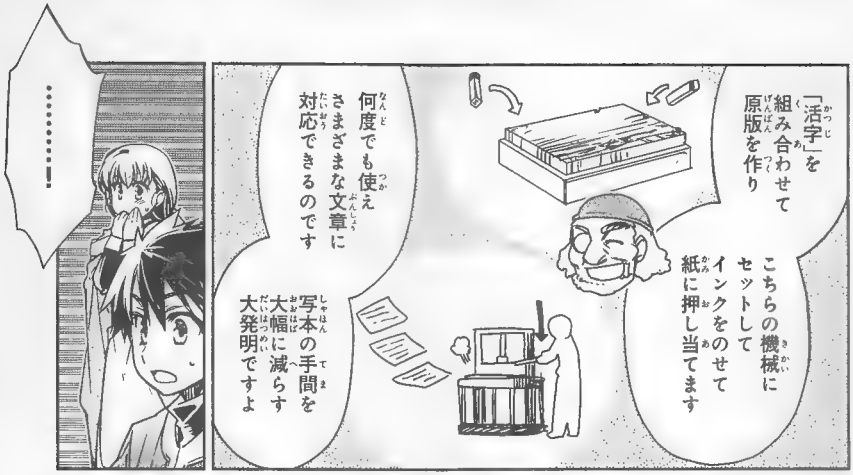
知識を残し
伝えるのには
書物にするのが
有効だが…
それを
広めるのにも
時間がかかる
本を一冊 人の手で
写本するのには
月日がかかるのだ

なるほど
なぁ…
お、二冊に
増えた!

学士様！
ご無沙汰しておりました
長旅お疲れになったでしょう
転移魔法で来たからあっという間だったけどな
あんな便利なものがあったのですね
ちょっと酔ってしまいました…
さあさあお茶でも出しますよ
ほほほお休みくださいな
何よりもまずは試作品を見たい
ほほほ
性急さはお変わりありませんな
わかりました こちらへどうぞ
ギィィ…
……
これか……！

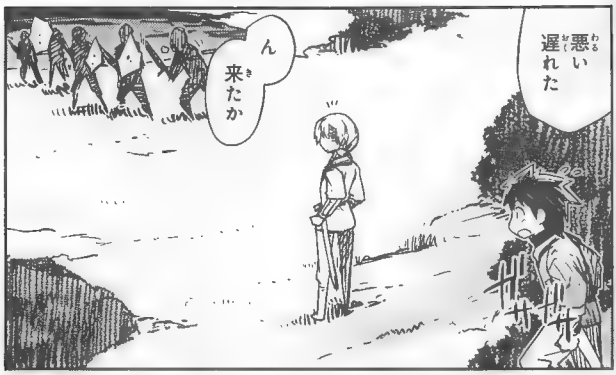

でかいな…
脱穀機…いえ
ブドウ絞り器に
似ているような…

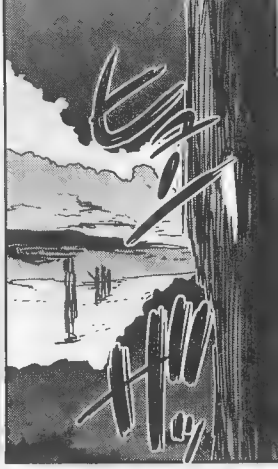
まだ試作品ですからね
どうしても大きくなってしまいました
ゴゴゴ…
こいつのキモは…
これだ
ハンコ？
一文字すらか入ってないけど
「活字」だ


「活字」を
組み合わせて
原版を作り
こちらの機械に
セットして
インクをのせて
紙に押し当てます
何度でも使え
さまざまな文章に
対応できるのです
写本の手間を
大幅に減らす
大発明ですよ
……！

これが 私たちの
新しい武器――…
「活版印刷機」だ

484
485
483
482
481
480


悪い
遅れた
ん
来たか



499
500!!!

遅かったな
送ってくだけの
つもりが道案内とか
いろいろあってね

あいや
終わるとこ
だった？
いや
ちょうど準備運動が
済んだところだ
ズンズンッア！

ぜー…
はー…
ぜー…

よし
ここからが
本番だぜ！
ビシバシ
しごき〜
座るな
立て！
貴様らは戦場で
疲れたら 敵の前で
座り込むのか!?

ヒィィィィ
そんなコト
思ってません…

仕上げだ！
ため池の周り
5周！
戦場どこ寝ぬたとき
足が動くかどうかで
生き死にが決まるぞ！
ヒィィ

先の戦争の英雄
女騎士様の指導を
受けられると聞いて
来たものの…
ああ
ゼー
ゼー
ゼー
恐ろしいほどの
厳しさだ…

だが
見ろよ…
先輩二人は
さらに馬鈴薯の
袋を担いで
走っている…！
なん…だ…？
すげぇ…
俺もいつか
あんなふうに…！

逃げてる最中に
子供を見つけたら
背負って助けるだろ？
ってコトを
二ヶ月前は
ヒーローってのは
そうやってなるんだよ
死ぬ…
死にそうで
ござる…！
綺麗な
レディたちが
見える…
待って
おくれよ～

おおおおま
センパイたち
スゴい気迫!?
よし…
俺たちも!!
パシャアアン
うひゃー
訓練のあとの
水浴びは最高だなー
キャル
つめてー
パシャ
パシャ
こっちにも
水をくれ
おう
ひょい
おおっ
これは本当に
冷たくて
気持ちいいな
パシャアッ

おひょ…
ひょ
お…
あ…
まっ…
……
なんだ
その顔

もしや

タオル一枚で隠れる私の胸のサイズに何かいいたいことでも……？

ぶんぶん

……

ならいい

ホラ

洗ってやるから頭をこっちに

お…

おう

パシャア

アーン

わしゃ

わしゃ

わしゃ…

ハアア
ア ア ア ア
ア ア
ア
ア

ずっとこうならいいんだけどな
うん…でも
そうもいかないよな

妻妾同居にしてもどちらが妻か勝負を――…
魔界にしても人間界にしてもそろそろ動きがあるはず…

え？
え？

あ…
ああ！そうだな！
今は膠着状態だがこの状況がいつまでも続くわけではない！
うん
だよな

…なぁ
思ったんだが
弓兵の爺さんと
私と勇者…
しゃくだが
胸のでかい
魔王とでな
魔族の主だった
将軍と砦…軍勢を
すべて撃破すれば
戦はあっさり
終わるんじゃ
ないか？
かもなー
でも
却下だな

魔王は人間の味方に
なったんだろう？
前の戦では
それは
違うさ
魔王は
勝ちでも
負けでもない
戦争の終わりを
目指しているんだ
あいつなりの方法で
魔族を救おうと
してるんだよ
本当に極悪非道の時も
大変な方法を
取ったもんだろう

それに あいつ 弱いしなー
え？
女王なのに？
女騎士でも 爺さんでも 余裕で勝てると 思うよ
冬寂王と 互角くらいかな？
でも …いや
だから なのかな
あいつは最初から 気がついてたんだ
〝並外れた戦闘能力で この戦争を終わらせる ことはできる〟
でも
〝争いの火種を 鎮火することは できない〟…ってな
あいつは すげーよ
知識ももちろん すげーけど 考えてることが すげーよ

だから
勇者は
魔王のこと…
好きに――
うん
仲間になった
それに
女騎士も
すげー
え？
修道会の
院長になって
農民を助けてる
爺さんも
王様を
育ててるしさ
みんな
すげーよ

俺は
斬った張ったしか
できないから
みんなが……
眩しいなぁ

そういえば
3バカの
ひとりの姿が
見えなかったが？
ああ
あいつなら…

若
こちらの
書類にサインを
おう
それから
南氷海の商船に
ついての決裁を…
ああ
面談の客が
3組お待ちで…

王よ
次の一団が
控えの間に…
ガチャ
ずーん…
わかった…
そのまま
待ってもらって
いてくれ…
はぁ
ビシッ
あの三国同盟で
ここまで忙しく
なるとは…
書類や陳情…
嘆願に取引と
引きも切りませんなぁ

税などというのは
地主が春と秋に
城の倉庫へ運んで
きて終わり…
内政など
堤が切れたら
賦役の発布をし
軍を養い食わせる
程度であったのに
なぜ ここまで
仕事が増えるのか…

南氷海の海路と
港の使用権
商人から
上がる税収
軍の再編成
移民の申請
王ひとりで捌くのは
無理がありますな

文官は
どうした？
税務官も
いただろうに
あまりの激務に
一週間で
倒れましたな
あのー
次の商人を
通して よろしい
でしょうか？
しかたない
通せ！

失礼いたします！
お初にお目にかかります
王よ…
ガチャッ
ごちゃらあ…
二ちゃか
二ちゃか
いや…

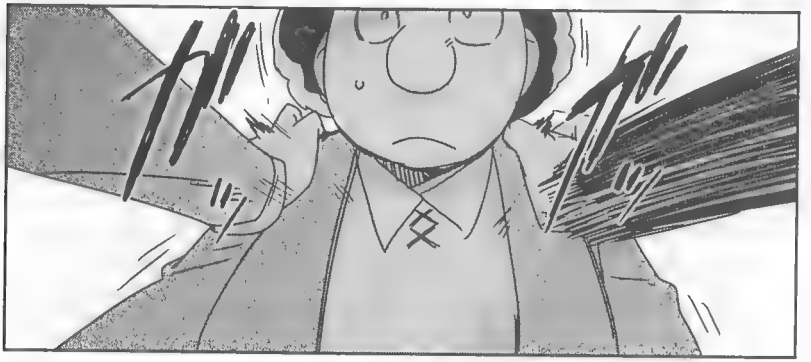
あのー……？
おお
よく来たな若き商人殿よ
すまんな立て込んでいて
ガサガサ

商人殿からの書状が届いていたはずなのだが…
…それから今月の税の帳簿が紛れてしまってな
すまぬ少々待ってくれぬか
ああそれなら――

僕が出した紹介状はこれですね
ひょい
おお
…税の帳簿はおそらくこれでしょう
こちらは嘆願書…これもか
ぱっ
ぱっ
ぱっ
二冊は…
おお…
おお…
この机の表が見えるとは…
いつ以来でしょうな
助かった時間の節約になった
いえ失礼しました

して
商人殿
ニシンの件で
あったかな？
いえ
違います
僕は商人の家の
三男坊でして
家の商売は
兄たちが継いだので
仕事がないんですよ

育てるのには飽きた。
あとは浴びるほど仕事を与えて
現場でこき使ってやってくれ。
――紅の学士
ここで
小さな船でも貸して
いただけるなら
商売や
情報集めやらで
お役に立てると
思うんですよ
ぽわわん



よいところに来てくれた
この国は有望な若者を歓迎しますぞ

なんで そんなに嬉しそうなんですか？
はははは
気にしなくてよいのだ
あはははは
？
あは…

しゅいん
大丈夫か？
はい
やっぱり少しクラクラしますね
何度も足がわりにしてすまないな
このくらいはお安い御用だよ

たったったった
おねーちゃん
当主のおねーちゃん
おにーちゃん
ばん
おかえり
なさーい！
こらっ
屋敷の中で
走っちゃ
ダメでしょ
ごめん
なさぁい
お疲れのみんなを
オモテナシします！

なんか冷たいぞ？
井戸水で瓶ごと冷やしました！
オレンジ水です！
しゅわしゅわで美味いなぁ
蜂蜜の甘さもちょうどいい
これは…炭酸か
醸造職人も真っ青だな
よくできているな
えへへ
妹は良い料理人になるやもしれんな
料理人？
美味しい料理をつくったり開発したりするのだ
おいしい…料理……
それすごい♪
それなる！料理人になる！

料理人になる！
毎日好きな
ご馳走をつくって
食べるー！
こらっ
待ちなさい！
ばぁん
あぁ
どたたたた…
盛大な誤解を
していたような…
あはは
でも あいつ
元気になったな
最初の頃は
姉ちゃんのうしろで
半ベソだったもんな
そうだな
そのくせ
噛みついてきてな
メイド長のやつ
びっくりしておったな
ガキのおねーちゃんは
いじわるなのー！
とか言って
そうなのか？
ああ
あのあとで
「人間にも なかなか
根性のある娘がいる」
と言っていたよ
へー
そうだったのか

？
なんだ？

髪がぼさぼさ
ではないか
私が
梳いてやる
え
いいよ
そんなの
よくない
持ち物の美観で
持ち主の威厳も
問われるのだぞ？

いいから
そこに座れ
む…

しゅ……
しゅる……

明日は開門都市だったか？

ああ 開門都市の連絡議会だ

東の皆将が街の商人たちや有力魔族をまとめて議会の代表になってしまうなんてなー

魔王の名代として開門都市に出向いた時は驚いたぜ

その後 街は落ち着いているのか？

おー あの皆将はなかなかできるやつだぞ

火竜大公の娘が連絡議会の議員になって開門都市に住むようになったし

魔族の方の抑えも…

ぴくっ

いたたた

髪巻き込んでる！

あ すまない

会議が終わったら
まっすぐ帰って
くるのだぞ？
コホ
いや
街の大通りで
縁日をやるって
いうから
縁日？
東方のお祭り
だってさ
岩将の発案で
魔族と人間の
交流が目的でな
いろいろ無料で
食い物を出したり
夜に明かりを灯したり
音楽流したり
…行かないと
いけないのか？
議員や魔王の名代が
率先して参加して
住民の不安を払拭
するのも役目なんだと
火竜公女が
言ってた
ヘー
ピンポーン

ドン
ドン
ドン
へぇ
賑やかで
いい感じの
祭りじゃないか
串焼きでも
買うかな
ああ
思いつきの
突貫企画にしちゃ
いい線いってるな
じゃ俺は
酒を…

エールをくれ
ジョッキで二杯だ
東の大将じゃ
ねぇですか
キュッと
冷えたところを
出しますから
待っててくだせぇよ
頼んだぜ
どうだい
案配は
盛況
ですねぇ
はねっ返りどもも
今日ばかりは
暴れねぇと思いますよ
こんなに楽しい
祭りなんだもの
だと いいがな
なんにせよ
戦いがないのが
一番ですや
戦争はまっぴら
ごめんですよ
焼け出されるのも
追われるのも
そりゃあ辛いもんで
がしょう?
ああ
誓って そんなことには
ならないようにすると
とっつぁんに
約束するよ

買ってきたぜ
こっちもだ
ここに
おったかや
びくっっ
捜しました
我が君

黒騎士殿の
妻である
妾をおいて
コソコソと…
なんて つれない
態度なのです
妻じゃないです
そのような
手練手管を
用いずとも
妾の心も体も
我が君のものだと
いうのに…
よよよ
ヒュー
俺のじゃないです
あの
黒騎士様が
出かけたの…
言ってしまって…
ご ごめんなさい
どっちにしろ
すぐバレたよ

それにしても着飾ってるじゃないか？
魔族の嬢ちゃんもかわいい格好させてもらって
東の砦将殿が縁日っていえば庶民の娘も着飾ってくると
仰ったんじゃありませんか？

だいたい魔族の未婚の女性が肉体を誇示しなくてどうします！
それは竜族だけのことであって…

私…こんな格好…恥ずかしい…です
まだ言ってるのかや

おー
焼き馬鈴薯だ
食うかー
まいぜー
ハフ
ハフ
我が君!
我が君!?
いかがです?

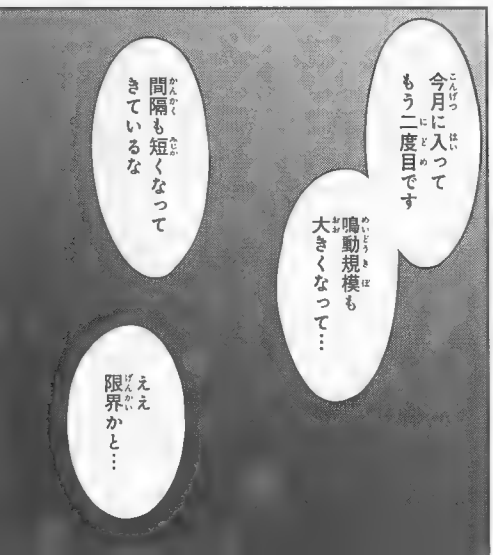
いかがって？
いい縁日だな
盛り上がってるよなー
いかがでしょう？
いい夜だよなー
いかがですか！
馬鈴薯食うか？
いかがかや!?
この音に合わせて踊るもんなのか？
おいその…
あんだろもうちょっとこう――
へ？
服褒めるとかさ

あ
あ～！
なるほど
ニブすぎだ
ボッ
ゴゴゴゴ
わーが！
きー～！
みー～？
よく似合ってるぞ！
公女はスタイルがいいからどんな服でも似合うけれど
今日のは異国情緒があって素敵だな！
馬鹿それは褒めすぎだ
ボーキサイト
ヨロイにヨゴレが…ニホンをお使いくださいっ
そうですか我が君っ！
妾は…妾は三国一の果報者でございますっ♪
ハラハラ

ところで…
我が君
妾 少々酔ってしまいました
そうか
ちょっと休むか？
開門都市で一番の宿に部屋をとってあります
送って…
いただけますか？
戦略的撤退ッ!!
どたたたた

勇者
晩メシはもう…
どたどた
わりっ
もう寝る！
『我が君への永遠の忠誠を誓って』

……ほほう


今月に入ってもう二度目です
鳴動規模も大きくなって…
間隔も短くなってきているな
ええ限界かと…

終 第十一話
いかがでしょう、我が君

第十一回

活版印刷機と書物の普及

活字を組み合わせるだけで
印刷ができる活版印刷は
書物を広く一般に普及させ
人々の啓発に大いに役立った。

活版印刷機登場以前の書物は高価で
一部の階層の人々しか読むことができなかった

活版印刷機の歴史と書物の普及による人々の啓発

世界三大発明と呼ばれるもののうち、これまでこの「まおゆう講座」ページでは羅針盤と火薬について説明してきた。そして、最後のひとつが本項で挙げる「活版印刷」である。

「活版」とは、文字や記号を刻んだ木や金属製のハンコ状のもの＝「活字」を組み合わせて作られた板のことを指す。史実では、15世紀半ばにドイツの金属加工職人であるヨハネス・グーテンベルクによって発明されたとされることが多いが、活字を用いて印刷するという方法自体は、それ以前から中国などに存在していたことが確認できる。

現存する最古の活字は、11世紀の人物・畢昇の膠泥活字であるとされており、これは粘土を用いた陶製であった。また、14世紀の高麗では、銅製の活字が作られていたといわれており、グーテンベルクよりも一世紀ほど以前から金属活字による印刷が行われていたことになる。

それでも、グーテンベルクの発明が画期的であるとされるのは、「活字の大量生産」を可能にした点にある。活字を金属で作るには鋳型（液体にした金属を流し込む型）が必要だが、高麗では砂で作っていたそれを、グーテンベルクは金属で作ることに成功した。このことにより、繰り返し使用しても同じ活字を高い精度で複製することができるようになったのである。このことにより、活字を容易に作成することができるようになり、活版印刷の実用性が飛躍的に高まることになったのである。

なお、ヨーロッパで活版印刷技術が開花したのは、地域の文字文化によるところが大きい。アルファベットのみですべてを表現できるヨーロッパ圏に対して、漢字文化である中国などでは膨大な数の活字が必要となってしまうため、活版印刷が定着しにくかったのだ。

「まおゆう」では、魔王が「教育を普及させるための武器」だと活版印刷を評しているが、グーテンベルクの活版印刷技術の革新以降のヨーロッパでは、爆発的に書物が読まれるようになった。その点において、魔王の発想は的を射たものであったのである。

活版印刷による書物の普及は
人々の啓発に大きな影響をもたらすだろう。

旅立ちし輩

せ
せ
せ
飲むかい？
ありがたくいただくでござる
商人子弟は今ごろどうしているだろうね
学士殿の教えにいちばん敏感だったあいつのこと
きっと大きな商談でもしてるでござるよ
すこし先に行かれてしまったかな
なぁに
すぐに追い越してやるでござる

あの開門都市を落とすのにどれだけ血が流れたかわかっているのか？

二年の歳月多額の戦費…

第二次遠征のすべてを貴公は無にされた！

貴公は光の精霊のご意志と全教会信徒の願いと希望を侮辱なされた

これは聖王国と教会に対する明確な背信行為…

極刑以外ありえませぬ

ち…違うのだ！

我は決して裏切ったのではない！

逃げたわけでは…

…そうだ！援軍…極光島へ救援に向かったのだ！

まおゆう
魔王勇者
第十二話

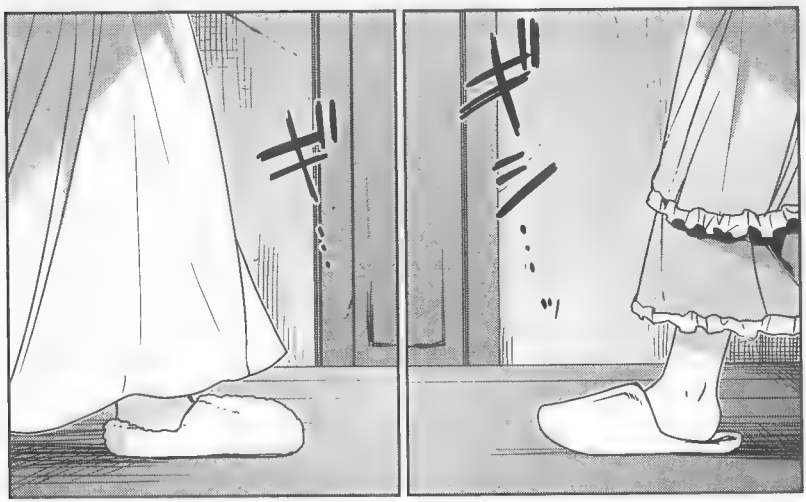
現に我らの働きで
極光島の奪還は
成った！
それに…
開門都市は
死霊の魔物や
魔族の反乱…
恐ろしい攻撃に
晒されていた
戦略上の決断は
司令官の権限だ

貴公の軍が現われた時
極光島城塞は
南部諸王国軍によって
包囲されており
勝敗は既に
決していたと
いうことだ
激しい反乱にあって
撤退したと？
ならば なぜ聖鍵遠征軍の
ほぼ全軍が戦傷もなく
人間界に帰還したのです？

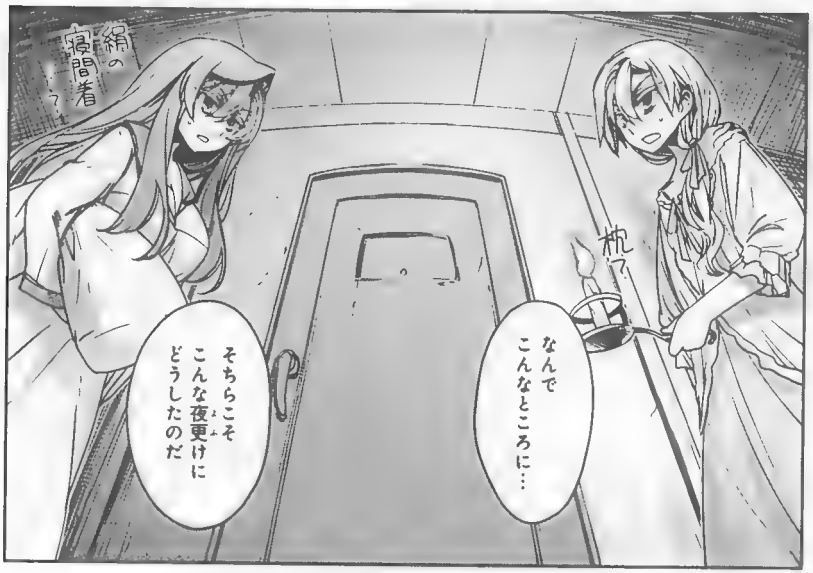
貴公は任務を放棄し
軍を率いて逃げ帰り
いたずらに兵を失った
開門都市の失陥と
将兵の損失…
どちらをとっても
貴公の罪は重い
この者——
司令官を
磔刑に処す！

第十二話 Archenemy and Hero 12th chapter

損得では割り切れないもの



ばったり


絹の寝間着
机?
なんで
こんなところに…
そちらこそ
こんな夜更(よふ)けに
どうしたのだ

ビリ
ビリ…
女騎士…
私は女騎士を人間界で
ほとんど唯一の友人だと思っている…
しゅみ!!
…うん
そうだね魔王
しゅみ!!
だから見逃してくれ
それはダメ

これを見ろ！
ばん
女物のハンカチではないか…
『我が君への永遠の忠誠を誓って』…？
え？
ええ!?
そうだ
魔界で勇者に言い寄っている女がいるらしい
そういうわけだ
今宵の私は退くに退けん
突如、神性が疼き血に飢えだしてきた
どういうわけだ!?
こちらだって残り数日の――
残り…？
ああ
いやなんでもない
……
ギャー
ギャー

ここは私が…！
いや私が…！
それでは私めが
えっ!?
夜伽でしょう？
そんなことで揉めるなんて
はしたないですわ
淑女たるもの
包容力と寛容の精神で
殿方を甘えさせられなければ
それはそうかもしれんな…
しかし誰が行くかとは話が別だ！
でしたら…
むんず
廊下でなんか騒いでないで
さっさと入ってしまってください
ポイッ
ポイッ
あっ

お二人とも
…いえ
三人とも
ごゆっくり～
キィ
あヨ!?
ちょ…
バタン

えーと…
うるさくて
当然気付いていたけど…
何やってんの
お前ら?

勇者!
ちょっと
タイムだ!
作戦会議を
する!
はぁ
私がヒロインは私が…
私がまんざは私は…
いやいや…
……

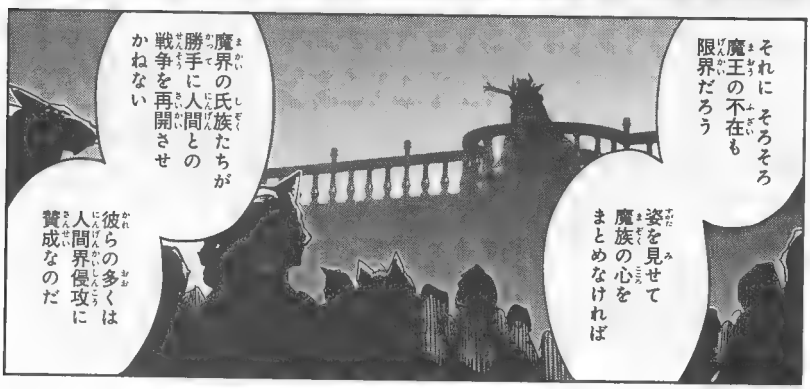
……
それでさ
ん？
どうした？
なんだ
この状況は!?
交渉とは
妥協の婉曲な
表現でもある
その現実の
哀しい写し絵だ
私だって
不本意だ
しかし パンが
ひとつしかない時は
半分で感謝しなければ
ならない
おばあちゃんが言ってた

うう
なんで
こんなことに…
両手に女を抱えておいて不満なのか!?
ぷにぷにだからダメなのか!?
駄肉だからか!?
勇者は私のものなのだぞ!
火竜のなんとかの方がいいって言うんじゃないでしょうね!?
胸がないとダメなのか!?
乙女の最上級は清らかさだぞ!
神に捧げられた純潔のちがいに泣きそう…

ギャー
ギャー
…ん
勇者？
ぐー
ぐー
寝たのか…？
寝られるか！
この状況下で
寝られる童貞がいたら
必殺勇者剣を
食らわせてやる！
ふれ…
勇者の髪は
もふもふだ
この髪を
触るのが
好きなのだ
うん
大きな犬
みたいだ
わしゃ
わしゃ
なで
なで

わしゃ…
…女騎士
私は来週にでも
魔界へ帰る
え？
へ？

魔王の
免許更新の
ようなものでな
説明は
難しいんだが…
代々の魔王の墓が
あるんだが
そこへ詣でないと
いけない
そうだな…
早くて数か月は
かかると思う


それに そろそろ
魔王の不在も
限界だろう
姿を見せて
魔族の心を
まとめなければ
魔界の氏族たちが
勝手に人間との
戦争を再開させ
かねない
彼らの多くは
人間界侵攻に
賛成なのだ

危険はないのか？
なんだったら
私が付いて…
俺も…
ありがとう
大丈夫だ
メイド長は
連れていくしな
魔界の墓…
冥府殿と
いうのだが
そこには
私以外は誰も
入れないのだ
だから
ちょっとだけ
勇者の体温が
欲しくてな
キュッ
こちらでのことは
いろいろと残して
いくことになるが
女騎士に頼る
ことになって
すまない
……
そうだった
のか
いや…
いいんだ

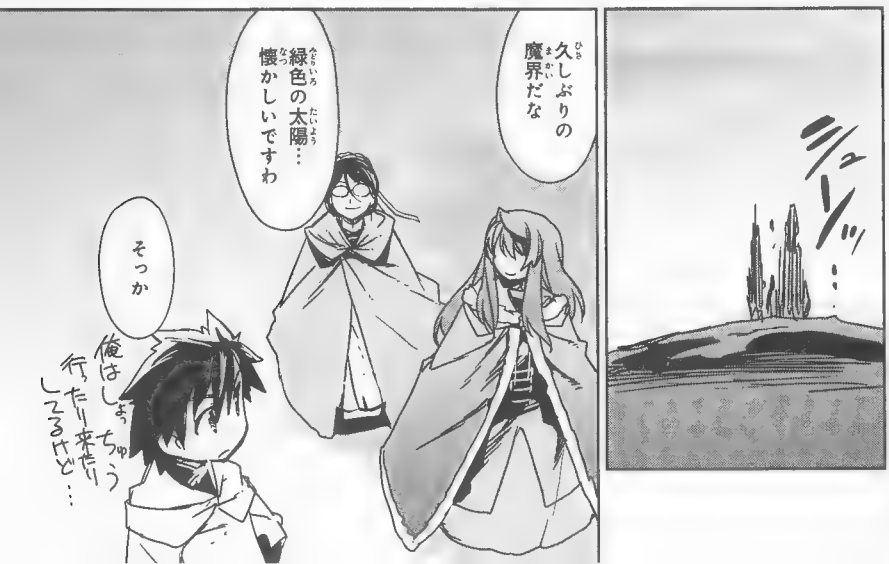
屋敷の細かいことは
メイド姉に
教えておくが…
勇者のことを
頼む
わかった
――その頼み
この剣に懸けて
守ろう
さて
だいたい
わかったか？
わかりました
よく
わかんない

貴女はお姉さんの
言うことを
ちゃんと聞いて
毎日のやることを
こなして
いくんですよ？
はーい！
語尾を不必要に
のばさない
はい
はい！

それから
メイド姉
これを
預けよう
指輪…
ですか？
使ってみれば
わかる
それをはめて
合言葉を
唱えてみよ
はい
パァアアア…
おー

これは…
うむ
上出来
上出来
私…
当主様の
姿に…？
どうしても
必要な時は
これで
私の替え玉を
やってくれ
は…
はい
頑張ります
準備は
いいぞー
うむ
無事のお帰りを
祈っております
いって
らっしゃいませ
いって
らっしゃーい♪

ああ
いってくる
あとのことは
任せましたよ
さぁ
今日の仕事を
始めるわよ？
うん！
おねーちゃん
さっきの指輪
かして～
ガメよ

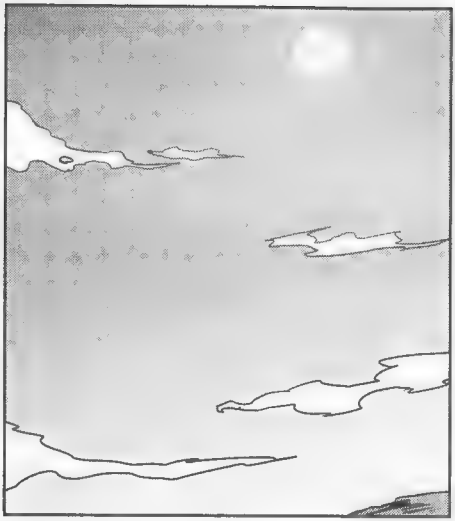

久しぶりの
魔界だな
緑色の太陽…
懐かしいですわ
そっか
俺はしょっちゅう
行ったり来たり
してるけど…

ちょっと歩けば開門都市だ
ここでいいんだな？
ああ
人間と魔族が共存を始めた街をこの目で見ておきたい
なんなら案内するぞ？
い…いやそれには及ばん！
あの街には…
？
じゃーニャ
はい
ええい勇者！
おう？

もふもふさせろ！
ぼっ
どわっ!?
わしゃわしゃ
あらあら
まぁまぁ

よし！
燃料補給完了だ！
はぁはぁ…
今ならば
先代たちが束になって
かかってきたところで
負ける気はしない！

…大丈夫なのか？
心配はいらない
開門都市の明るい空気が感じられるぞ
人間と魔族が一緒に暮らす街だ
やっとここまで来た
もう丘の頂上は見え始めているんだ
だから行ってくるぞ——私の勇者
おう
行ってきやがれ——俺の魔王


また会おう
すぐにでも

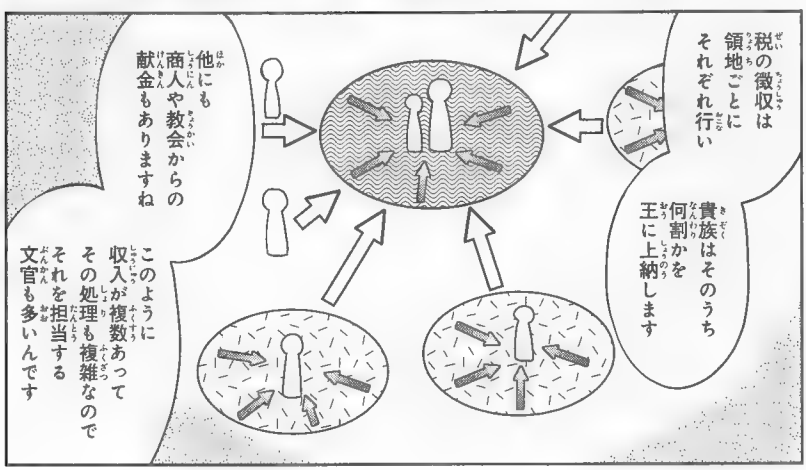
冬の国 王宮
予算編纂室

手を止めるな！
整理を続けるんだ
チャッ
チャッ
チャッ
ふえええ…

もう目がしぱしぱしますぅ
ふぇぇ…
従僕
お前みたいなショタっ子は
ちょっと泣きべその方がモテるんだ
チャッ チャッ
ホラ ニヤニヤ
そんなぁ!?
失礼しますこちらの書類も…
ガチャ…
ごちゃらぁ…
ぱさぁ
あ…
すごいですね…
ゴゴゴ…
商人子弟さんが来てから8割方書類が減っていますよ!
さすがは守護職の弟子!!
この王国の人たちは国を経営していく気がなかったとしか思えない!

ここまで忙しくなったのはごく最近なんです
三国通商協定や極光島奪還で商人や移民の数が膨れ上がったんですね
ふむふむ
…その辺に解決のヒントがあるのかな？
ヒント？
〝問題を考えてはいけない解決方法を考えよ〟
僕の先生の教えだ
くわしく聞かせてくれないか？
わかりました
どこから話しましょうかねぇ…
南部諸王国では大陸中央部に比べて文官の数が少ないんですよ
そりゃまたどうして？
南部諸王国には貴族領がないんです
ふーん…
へぇ？

中央の場合
国の土地は
王の治める『直轄地』と
貴族の治める『貴族領』で
構成されています
貴族領
直轄地
貴族領
貴族領
貴族領
貴族は自分の領地に
自由に税を取り立てたり
賦役…農奴に強制労働
させることができます
通行料をとることも
ありますね
大河や港を領地に
もつ貴族は
金持ちになります
ああ それで
同じ国の中で
何回も通行税を
とられたり
場所によって
税が違ったり
するのか
ほー


税の徴収は
領地ごとに
それぞれ行い
貴族はそのうち
何割かを
王に上納します
他にも
商人や教会からの
献金もありますね
このように
収入が複数あって
その処理も複雑なので
それを担当する
文官も多いんです

一方 南部諸王国は
土地も痩せているし
一年のほとんどが
雪に覆われてしまいます

貴族に与えるほどの
良い土地がないんです

だから 収入源は
直轄地のみになって
税の徴収もシンプルです

直轄地

南部諸王国でいう
貴族というのは
名誉職であるか
宮廷内の位を
表すんですよ

私も
名誉の爵位
きぢだ！

それで文官の数が
足りないのか…

こんな話が
お役に立てば
いいんですけれど

難しいです…

ありがとう
十分参考に
なったよ

南部には文官が足りない

ならば中央の制度を真似てただ文官を増やせばいいのか？

僕らの仕事が減って楽になりますぅ！

答えはそこまで簡単でもない

中央の貴族制度がもつ問題までも真似ることになってしまう

問題…？

ひとつは貴族が地元の勢力と癒着するのを防げないこと

貴族には税制の自由があるから賄賂などで癒着が起これば不公平が生まれる

もうひとつはコネや袖の下

役人になってしまえば甘い汁が吸えるわけだから

袖の下を使ったり例えば血縁関係を使って潜り込むのが当たり前になる

腐敗した役人が地位を利用して賄賂を受け取り

機構の機能低下が起きる

コネなどによる地位の独占によってこの機能低下が未来へ伝播していき

やがては機構そのものが腐っていくだろう

なるほど…
言われてみれば
そのとおりですね
そんなことに
なったら困りますう
これが答えだ
え？
大陸中央では
能力ややる気があっても
出世できない
なぜなら高い地位や
官職は コネによって
独占されているから
ならば
南部諸王国の
答えはひとつ
広く一般から
役人を募る
そして その能力と
やる気に応じて
給金を出す
賄賂と決別した
新しい機構を
つくり出すんだ！

こんにちは
学士殿に
取り次いで
もらえるかな
はひっ

こちらに
どうぞー
ガチャッ
おねーちゃ…
じゃなかった
当主様を
呼んでまいります
ぎくっ
しゃ
あはは
よろしくね

つるっ
べしゃ
じわぁ…
おねーちゃん
どうしよー？
仕方ないわ
こうなったら
当主様から
お預かりした
アレを使って——
お茶を
よろしくね

コンコン…
ガチャッ
お待たせしてすまない
……
ご無沙汰しています学士殿
どうかな変わりないかな
ええ…無事に商売を続けさせてもらっています

その…
本日は？
定例の報告書や
書類などのお届けです
普段は船便ですが
学士殿の艶姿が
懐かしく
なりまして
お目にかかろうと
のこのこ参上して
しまいました
いや お恥ずかしい
ははは…
それは
その……
言葉に困るな
さあて……

ガチャッ
もう いいや
この人はもう
見抜いてる
……はい
パアア
話に聞いていた
とおり凄腕だな
ひと目で見抜かれるとは
思わなかったよ
パタン…
いえいえ 逆です
こういうことは大抵
直感が正しいですから

お久しぶりですね
勇者殿
戦意高揚の演説で
何度かお世話に
なりました
ああ
四年ぶりに
なるのか
あんたは…
少し変わったような
気がするな
もっと隙がなくて
完璧に見えた
記憶がある
…でも今の方が
よほど敵には
したくないな
奇遇ですね
私もそう思って
いたところです

私が変わったとすれば
それは あの方のせいかも
しれません
〝相容れない
光と影を
仲介し 妥協し
取引する〟
あれで私の
商人としての生は
ひとつの道標を得た
かけがえのない
言葉です
四年前に演説した時…
俺が帰ったら宴を奢るとか
言ってたっけ
おお
そうでした
契約は果たさねば…
いつでもいいですよ
じゃあ
今だ
え…
ポン…
シュンッ

ここは…？
足がガクガクって…
ふらっ…
転倒中だ
空を見てみろ
……？
この辺りでは夜になるとなぜか虹が降るんだ
不思議なモーだ
……

まさか
ここは…
うん
魔界だ
変わったという
あんたの言葉を
信じることにした
だから
連れてきた
あの人は
もしや…
魔族だ
やはり…
あの外壁は？

あれが「開門都市」
…この間まで人間が占拠していた街さ
逃げ帰った司令官によれば無辜の人々が虐殺され今は魔族が再統治するという…？
そりゃ嘘だな
開門都市にいた人間の商人たち数千人は今でも商売をしているよ
あいつ…そんな奴っけ…
は？
魔族が人間を生かしておくはずが…
あいつと話したんだろう？
じゃあわかってるはずだ
あいつが何を夢見ていたか
……
あいつはお前のこと買ってたぞ？
人間界にも好敵手はいるってな

勇者殿とあの方はどういう…
…いえ
私に何をしろというのです？
どんな目的でこの地に連れてきたのですか？
さすがだな
商人の顔になると油断も隙もない
正直 交渉や話し合いでは敵いそうもない
俺はもしもと考えるのも話すのも苦手なんだよ
だから見せる
これが開門都市
人間と魔族が共存している世界で唯一の街だ

勇者殿の力ならば
あの街を人間の手に
戻すこともできるのでは
ないですか？

できるかもだけどさ

それじゃ今までと
同じことの繰り返しに
なっちゃうだろ

そうじゃ
なくて…

なんというのかな——

…うん

ただの勇者に
戻るのは——
寂しいんだな

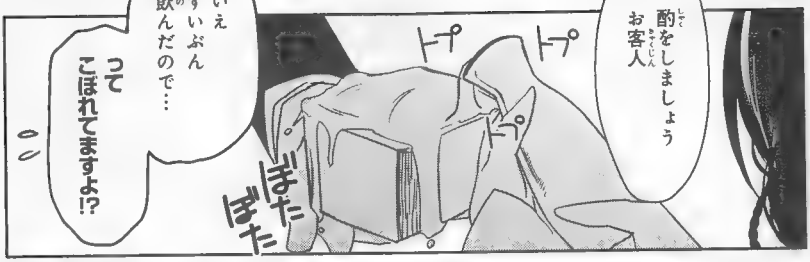
わが君！

あれは…？

魔族？

さぁ

四年前の
約束の宴だ


酌をしましょう
お客人
トプ
トプ
トプ
ぼた
ぼた
いえ
ずいぶん
飲んだので…
って
こぼれてますよ!?

杯の縁より
こぼれるくらいで
ないと
ホホホホ
「注いだ」とは
申しませぬ
火竜の酌を拒むと
耳をかじられる
らしいぞ?
黒騎士
さきも…
トプ
トプ
ボボ
ボボ

なんて恐ろしい
ところなんだ…
魔界だしなー
ぴ
ぴ

で…
どうだ?
ヒソ
ヒソ…
?
なにがです?

おっぱいだよ
おっぱいっ！
はあぁ!?
宴というと
おっぱいは
欠かせませんなぁ
そういう
もんか？
あははは
もちろんです
選りすぐりの
美女を揃えて
歓待いたします
そのやかり
今日のスピーチは
はいきって
お願い
しますよ

……言った
確かに言いました
若気の
いたりとはいえ
……
あはは
あはは

…で
どうよ？

…結構な
お手前です
だよなー
ちなみに
どっちが
好みまま？
ヒソヒソ
私は公女の
ほう…
？
……く
……くく
あはは
はははは
びくっ
はは
はは
こんなに
笑ったのは
久しぶりです
はは…
くぴ
くぴ
酒も
うまいしな

素晴らしい景色を見せていただき
うまい酒を飲み
楽しく笑わせていただいた
だからといって交渉の妥協はしませんよ
わかってる
あいつが言ってた
商人たちは「許可」を求めるってな
ええ
使用許可
通行許可
通商許可…
新しい土地は新しい市場であり新しい物産の供給源でもあります

あの都市のそれはどうだ？
そうですね…
まさに金貨の実がたわわに実った果樹園といったところでしょうか
よし売った
！
…対価には何を求めるんです？
俺はあいつじゃないから何だったら釣り合うのかわからないんだよな
だから 対価なんて言われても困っちまうんだけど
それでも
となるとさ
商人は 何でも損と得に切り分けて考えるんだろ？

みんなは そんな商人を
強突く張りだとか
利益にしか関心のない
化け物のように言うけれど
魔王を見ていると
そんなこと
ないんじゃないかって
俺は思うんだ
誰よりも利に聡く
誰よりも真剣に
損得勘定で
生きている商人は
もしかしたら
……

「損得では
割り切れないもの」を
世界でいちばん最初に
見つけるかもしれない
俺に「それ」を
見せてくれ
それが対価だ

あいつと俺には
あんたの見つける
「それ」が必要だと
思うんだ
く…く…
あはははは
なんでしょうね
この…
この馬鹿馬鹿しい
気持ちはっ！
ああ
愉快だ
はは
私はどうやら
とても愉快ですよ
ゴロん…
はは…
我が君とお客人…
楽しそうで
なによりです
ハイ…
姫様は…
今日は
いいんです
…か？
男同士の語らいを
邪魔しては
女がすたると
いうもの
今宵は我らも
この虹を肴に酒を
楽しみましょう

いいでしょう
確かに その契約を
お受けしました
必ずや「それ」を
仕入れてご覧に
入れましょう
頼む

その暁には
貴方とあの方の
関係を聞いても
きっと退かずに
済むでしょう

不利な時期に
戦いを挑むほど
私は愚かでは
ありません
なんだと!?
…な
なんと
申された?
おや
声が遠かった
ですかな?
では もう一度
繰り返させて
いただきましょう
冬の国にて
学舎を開きし
「紅の学士」を
名乗りし者
彼の者には
異端であるという
告発と嫌疑が
かけられております

終 第十二話
損得では割り切れないもの

貴族の序列とその成り立ち

貴族という身分の原点は戦士。
それぞれの序列や
成り立ちについて
解説していこう。

大きな功績を遺した人物には
一代限りの爵位が贈られることもあった。

貴族制はフランク王国が発祥

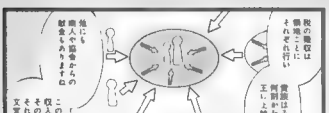
中世ヨーロッパに似た「まおゆう」の世界では王侯貴族が上流階級を構成しているが、一般的な貴族の序列は、基本的に上から公爵・侯爵・伯爵・子爵・男爵と5段階に分けられる。のちに、爵位をもたないながらも馬に騎乗して戦う戦士の称号として〝騎士〟が加えられることになり、一般的にはそれも含めた6階級を貴族とすることも多い。全貌は明らかになっていないが「まおゆう」の世界においてもこのあたりは似たものと思われる。

ヨーロッパの貴族制は、5～9世紀にかけて西ヨーロッパに君臨していたフランク王国の官職がもとになっているといわれる。当初は、王族のなかで広い領地をもつ者が「公爵」、国境地帯の地方長官が「辺境伯」、一般の地方長官が「伯爵」、これら以外の豪族のなかで勢力の強い者が「男爵」と呼ばれた。「侯爵」は辺境伯に代わる称号としてのちに生まれたもの。「子爵」は貴族の子弟の称号として使われることが多く、ドイツ圏のように使わない地域もある。

辺境伯と聞くと、へんぴな土地に追いやられた貧乏貴族を思い浮かべ、伯爵よりも上位にあることを不思議に思うかもしれないだが、辺境伯が預かる領地は異民族と国境を接する地域で、地方長官といっても国境を防衛する軍事総督のような位置づけにある。そのため、領地だけではなく権限もほかの地方長官より大きい。国防上の理由だけではなく、反乱を起こさせないという意味でも、有能かつ信頼のおける者しか任命できない重要な役職なのだ。

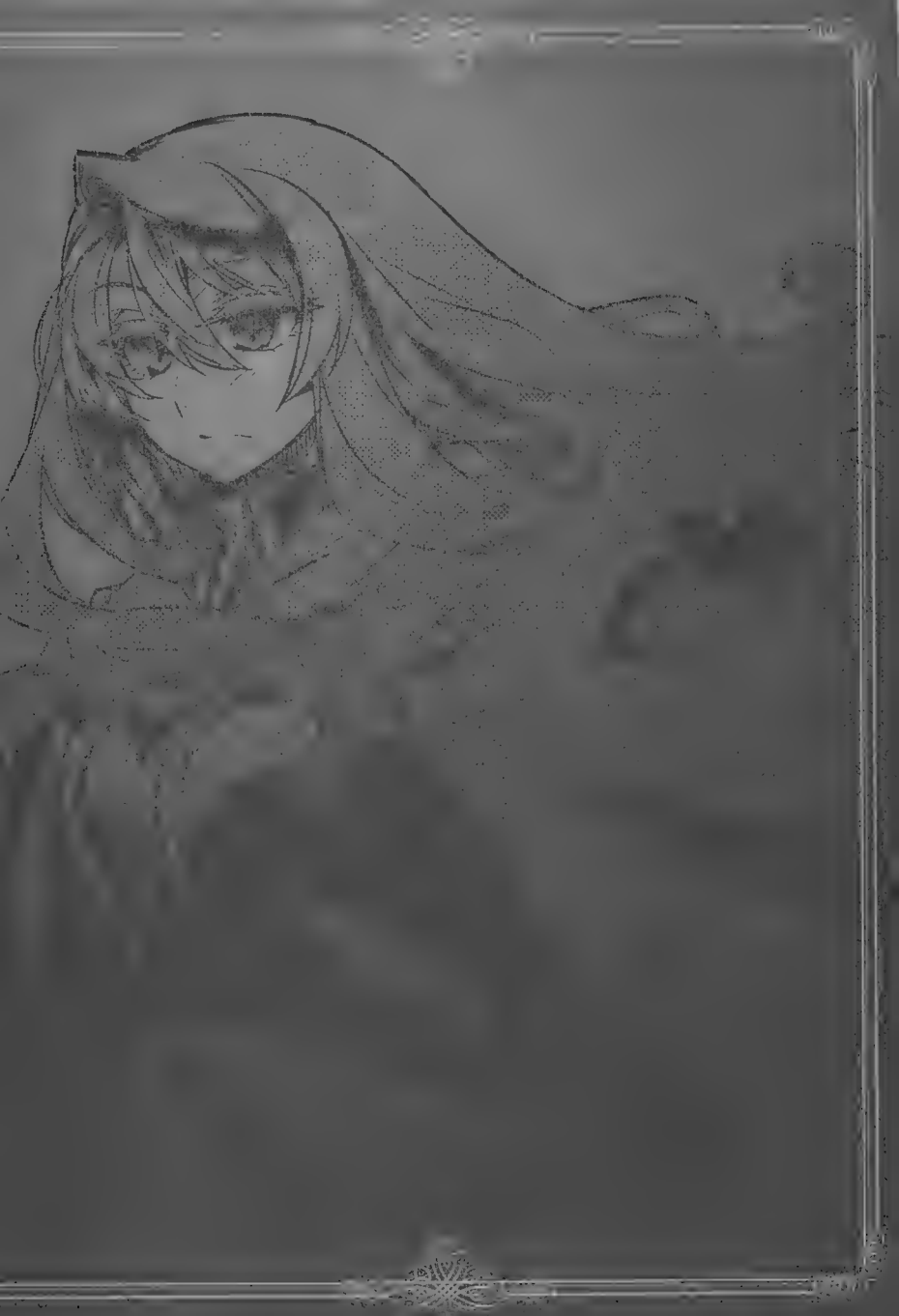
本コーナーの第二回（第1巻に収録）でも軽く触れたが、古来より外敵と戦う戦士は地位が高く、これが貴族階級の原点である。王に対しては戦う義務を負うかわりに領地を保障されており、臣下ではあるものの、もちつもたれつの関係にあった。

日本の戦国時代にも言えることだが、君主が対外的に拡大政策をとる理由のひとつには、臣下に褒美として与える土地を確保するためという事情がある。とくに中世初期においては、王といえども絶対的な権力者ではなく、諸侯が形成する連帯の盟主といった地位に過ぎなかった。そのため、王個人に強烈なカリスマでもない限り、臣下を繋ぎとめておくのは、まさに土地ありきだったといえる。こうした事情もあり、貴族が王に上納する一部の税を除けば、所領の扱いについては基本的に領主である貴族に一任されたケースが非常に多かった。



戦いとほぼ無縁な中央大陸の貴族たちは
いちばん旨味がある立場といえる。

巻末付録 Archenemy and Hero Special Appendix
イラストギャラリー



南部諸王国では中央大陸のくびきから
脱せんとする気運が高まり、
魔界の開門都市では
人間との共存が模索されるなど、
長らく続く人間と魔族の戦争は
新たな局面を迎えようとしていた。

こうして着実に「丘の向こう」へと
歩を進めていたかに思えた魔王と勇者。
だが、彼らを追い詰めようとする
暗い意志が密かに蠢き迫っていた。

聖教会による紅の学士の異端弾劾が。
古き魔王たちによる
魔王の魂の汚染が――。

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」

コミックス第4巻

'12年8月発売予定

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」③

漫画 石田あきら　原作 橙乃ままれ　キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

2012年4月26日初版発行

発行者
新名　新

発行　株式会社角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8719(編集)
発売　株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8521(営業)
http://www.kadokawa.co.jp

装幀・デザイン
沼利光(D式Graphics)

印刷 共同印刷株式会社　製本 共同印刷株式会社

初出／『月刊コンプエース』'12年2月号～'12年5月号

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2012 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Akira ISHIDA 2012
©2011 Touno Mamare／PUBLISHED BY ENTERBRAIN,INC.
ISBN978-4-04-120205-0 C0979

おおかみ

Archenemy and Hero 魔王勇者

——「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」——

第二巻

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉猫之丞・toi8

Kadokawa Comics A

おしえて！メイ長
その3
なにか悩み事ですか？
はい…
あ
メイドとして自分がどれほどなのかと…
では メイドカを測ってみましょう
ピピピピピピ…
メイドカ!?
メガネにそんな機能が!?
メイド姉のメイドカはおよそ六百…
メイドになって日が浅いのに驚異的な数値です
メイド妹のメイドカは八十…
まだまだ精進が必要ですね
メイド長のメイドカはー？
私のメイドカは53万です
!?
しかし まだまだ本気ではありませんよ…？
ここからが本当の地獄だ…!?